

# 第9回意見交換会 記録

宝塚市議会

## 目次

### <全体>

1 開催日時・テーマ・会場 .....	P. 1
2 参加者 .....	P. 1
3 当日のタイムテーブル .....	P. 2
4 意見交換のグループ編成 .....	P. 3
5 意見交換会の記録 .....	P. 4

### <意見交換の記録>

1 班の記録 .....	P. 1 1
2 班の記録 .....	P. 2 3
3 班の記録 .....	P. 3 1
4 班の記録 .....	P. 4 1



# 報告内容

## 1 開催日時・テーマ・会場

### (1) 日 時

令和2年(2020年)2月7日(金)

12時55分から 16時00分(開場12時30分)

### (2) テーマ

防災の取り組みについて

### (3) 会 場

宝塚市議会議事堂

◇ 開会及び報告……本会議場

◇ 意見交換の各グループ及び会場

議長室、議会第1会議室、第1委員会室、第3委員会室

## 2 参加者

### (1) 市民 (6団体、28名、○当日代表者)

◇ 宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会「コミュニティすえなり」

○廣木 昭 小垣 佳子 中西 勇 前田 美智子 村山 謙二

◇ まちづくり協議会コミュニティ末広「コミュニティ末広」

○豊田 茂男 乃美 公明 半谷 喜一 檜垣 彰子 松川 富喜子

◇ 宝塚第一小学校区まちづくり協議会

○中谷 修 大槻 恵子 服部 晃 宮川 勝一 山本 敏晴

◇ 宝塚小学校区まちづくり協議会「宝小コミュニティ(川面地区自主防災会)」

○喜多 毅 澤園 幸代 田口 喜規 森田 大和 安庭 正明

◇ 宝塚市長尾地区まちづくり協議会「ふれあいコミュニティ長尾」

○阪上 良彦 金岡 信重 谷口 建 庭山 茂夫 松本 清三

◇ 社会福祉法人 愛和会 特別養護老人ホーム 宝塚あいわ苑

○川本 千代美 加藤 雅章 福住 武士

### (2) 宝塚市議会議員 (議員26名)

中野 正	富川 晃太郎	浅谷 亜紀	池田 光隆
石倉 加代子	伊庭 聡	岩佐 まさし	江原 和明
大川 裕之	大島 淡紅子	風早 ひさお	梶川 みさお
川口 潤	北野 聡子	北山 照昭	くわはら 健三郎
田中 こう	田中 大志朗	たぶち 静子	寺本 早苗
となき 正勝	藤岡 和枝	三宅 浩二	村松 あんな
山本 敬子	横田 まさのり		

### 3 当日のタイムテーブル

時 間	内 容	場 所
12:30	参加団体の参加者集合	議会第1会議室
12:30	開場	本会議場
13:00	開会 ・開会あいさつ ・参加団体の紹介	
13:10	・市担当部局から、「災害発生時の宝塚市の災害想定等、防災の取り組み」について説明	
13:25	・司会者から、意見交換会の進め方及び意見交換会での諸注意などを説明	
13:30	4グループに分かれ、意見交換の会場へ移動	
13:40	意見交換開始	[場所] 1班…議長室 2班…議会第1会議室 3班…第1委員会室 4班…第3委員会室
15:00	意見交換終了	
15:15	意見交換のまとめ ・各班の報告 ・各団体からの感想 閉会あいさつ	本会議場
16:00	閉会	

4 意見交換のグループ編成

1班 (14人) 議長室				3班 (13人) 第1委員会室			
参加者	ひろき あきら 廣木 昭	コミュニティすえなり		参加者	まえだ みちこ 前田美智子	コミュニティすえなり	
	こがき よしこ 小垣 佳子	コミュニティすえなり			はんや きいち 半谷 喜一	コミュニティ末広	
	のみ きみあき 乃美 公明	コミュニティ末広			おおつき けいこ 大槻 恵子	宝塚第一小学校区まちづくり協 議会	
	はっとり あきら 服部 晃	宝塚第一小学校区まちづくり協 議会			なかに おさむ 中谷 修	宝塚第一小学校区まちづくり協 議会	
	たくち よしのり 田口 喜規	宝小コミュニティ (川面地区自主防災会)			やすば まさあき 安庭 正明	宝小コミュニティ (川面地区自主防災会)	
	たにぐち けん 谷口 建	ふれあいコミュニティ長尾			さかうえ よしひこ 阪上 良彦	ふれあいコミュニティ長尾	
	かとう まさあき 加藤 雅章	宝塚あいわ苑			にわやま しげお 庭山 茂夫	ふれあいコミュニティ長尾	
議員	なかの たけし 中野 正	公明党議員団		議員	よこた まさのり 横田まさのり	日本共産党宝塚市会議員団	司会
	むらまつ あんな 村松あんな	令和安全・維新の会	司会		くわはら けんざぶろう くわはら健三郎	たからづか真政会	
	たなかだいしろう 田中大志朗	市民ネット宝塚			いしくらかよこ 石倉加代子	たからづか真政会	
	あきたに あき 浅谷 亜紀	たからづか真政会			えばら かずあき 江原 和明	公明党議員団	
	おおかわ ひろゆき 大川 裕之	たからづか真政会			きたの きとこ 北野 聡子	市民ネット宝塚	
	おおしまと きこ 大島淡紅子	社会民主党議員会			やまもと けいこ 山本 敬子	令和安全・維新の会	
	たなか こう 田中 こう	日本共産党宝塚市会議員団					
2班 (13人) 議会第1会議室				4班 (14人) 第3委員会室			
参加者	なかにし いむ 中西 勇	コミュニティすえなり		参加者	むらやま けんじ 村山 謙二	コミュニティすえなり	
	とよだ しげお 豊田 茂男	コミュニティ末広			ひがき しょうこ 檜垣 彰子	コミュニティ末広	
	まつかわと きこ 松川富喜子	コミュニティ末広			やまもと としほる 山本 敏晴	宝塚第一小学校区まちづくり協 議会	
	みやがわ しょういち 宮川 勝一	宝塚第一小学校区まちづくり協 議会			きた たけし 喜多 毅	宝小コミュニティ (川面地区自主防災会)	
	もりた ひろかず 森田 大和	宝小コミュニティ (川面地区自主防災会)			さわその さちよ 澤園 幸代	宝小コミュニティ (川面地区自主防災会)	
	かなおか のぶしげ 金岡 信重	ふれあいコミュニティ長尾			まつもと せいぞう 松本 清三	ふれあいコミュニティ長尾	
	かわもと ちよみ 川本千代美	宝塚あいわ苑			ふくずみ たけし 福住 武士	宝塚あいわ苑	
議員	かわくち じゅん 川口 潤	市民ネット宝塚	司会	議員	かざはや ひさお 風早ひさお	たからづか真政会	司会
	いば さとし 伊庭 聡	令和安全・維新の会			いけだ みつたか 池田 光隆	令和安全・維新の会	
	いわさ まさし 岩佐まさし	たからづか真政会			かじかわ みさお 梶川みさお	社会民主党議員会	
	きたやま てるあき 北山 照昭	令和安全・維新の会			しずこ たぶち静子	日本共産党宝塚市会議員団	
	となき 正勝 となき正勝	日本共産党宝塚市会議員団			てらもと さなえ 寺本 早苗	市民ネット宝塚	
	ふじおか かずえ 藤岡 和枝	公明党議員団			とみかわこうたろう 富川晃太郎	たからづか真政会	
					みやけ こうじ 三宅 浩二	公明党議員団	

## 5 意見交換会の記録

### (1) 開会（本会議場）

司会進行	三宅 広報広聴委員会委員長
開会挨拶	中野 市議会議長
参加者	市民 28 名（議席に着席） 議員 26 名（議席後方パイプイスに着席）

#### ア 開会・挨拶

三宅広報広聴委員会委員長（以下「司会」とする）から、第9回意見交換会開会の宣言があり、市議会を代表して中野議長から挨拶が行われた。

##### 【中野議長 挨拶の概要】

宝塚市議会では、宝塚市議会基本条例に基づき、毎年、市議会と市民との意見交換会を開催しており、今回は、防災をテーマに、6団体の皆さまのご協力を得て、意見交換会を開催するに至った。

昨今の豪雨や台風など、想定を上回る災害が相次いで発生し、被害の規模も拡大している。多くの自治体でも、災害に対応していくことが急務となっており、行政と地域の連携、自助・共助・公助の役割分担が重要になっている。

そのような中、参加団体の皆さまには、防災に対して、日ごろから積極的に活動いただき、感謝している。現場の活動の中での気づきや課題など、今日は議員にぶつけていただき、意見交換ができればと思っている。

議員 26 名全員が参加する。本日の意見交換会が皆さまにとってよい機会になったと言っただけのよう、頑張りたい。

#### イ 参加者の紹介

司会から、参加団体（6団体）について順次紹介があった。

#### ウ 宝塚市の災害と被害想定について

共通認識を深めるため、「宝塚市における災害発生時の被害想定」と題し、宝塚市都市安全部、山中 毅 危機管理監から説明を受けた。

##### 【説明の概要】

災害について、正しく恐れて正しく知って、日ごろの備えで減災してほしい。現在、新型コロナウイルス感染症が発生し、怖いと思っている方は多い。マスクが足りない状況に、行政の対応が遅いからだとの声もある。しかし、日本ではインフルエンザで年間約 2 千人の方が亡くなっており、インフルエンザ関連で亡

くなる方も約 1 万人もいる。日ごろからインフルエンザにしっかり備えていれば、マスクを備蓄しているはず。マスクは自分の感染源を外に出さないためのもので、しっかり手洗い及びうがいをすれば予防できる。そういったことが正しく恐れて正しく備えることにつながる。

地震災害について、阪神・淡路大震災当時は、宝塚市では避難所が最大 65 カ所開設されたが、市には 65 カ所も避難所はなく、何も決まったものがない中で住民自らが避難所を運営されていた。行政側にとっても震度 7 の地震は想定外で、宝塚市の地域防災計画の中でも地震に対する記載は 6 ページしかなく、地震に対する備えはできていなかった。今後、南海トラフ巨大地震が 30 年以内に 80% の確率で起こると想定されている。国難になることが予測され、本市及び阪神間各市でも約 1 週間は物資が届かない、電気や水道、ガスの復旧がおくれるなどの被害想定をしている。

水害被害について、市内の史跡からも 100 年に一度武庫川が氾濫し、堤防が決壊する大雨災害が起こっていたことがわかる。今後、千年に一度の大雨災害が起こる恐れもある。今年の台風 19 号では日本各地で河川堤防が決壊するなど、甚大な被害を受けた。本市でも台風の進路によっては同様に武庫川も氾濫が起こっていたと考える。

また、水害とともに恐れているのが土砂災害である。宝塚市は山を削って宅地造成した土地が多いため、土砂災害警戒区域が多い。兵庫県の指定の土砂災害区域（イエロー区域）が 192 カ所、土砂災害特別警戒区域（レッド区域）が 86 カ所指定されている。さらに令和 2 年 3 月末には西谷地区に新たにイエロー区域 82 カ所及びレッド区域 50 カ所が追加指定される予定である。

最後に、市内で起こった過去の災害を踏まえ、自分が住む土地の地形を把握するなど、情報を取り入れていただきたい。そして、自助・共助・公助すべきことを再確認し、十分備えていただきたい。

#### エ 意見交換についての説明

司会から、本日の意見交換会全体の流れ及び注意事項等について説明があった。意見交換会については、このあと、4 つのグループに分かれ、テーマに沿って意見交換を行い、グループの意見交換終了後、本会議場に再度集まり、各会場での意見交換の様子について報告を受け、全体で共有していく旨の説明があった。

#### (2) 意見交換（4会場）

別添（グループ別の記録）のとおり

(3) 報告～閉会（本会議場）

司会進行	三宅 広報広聴委員会委員長
グループ報告	1班 田中 大志朗 議員 2班 伊庭 聡 議員 3班 くわはら 健三郎 議員 4班 池田 光隆 議員
参加団体の感想	廣木 昭 さん（コミュニティすえなり） 豊田 茂男 さん（コミュニティ末広） 中谷 修 さん（宝塚第一小学校区まちづくり協議会） 喜多 毅 さん（宝小コミュニティ(川面地区自主防災会)） 阪上 良彦 さん（ふれあいコミュニティ長尾） 川本 千代美 さん（宝塚あいわ苑）
閉会挨拶	富川 市議会副議長
参加者	市民 28 名（議席に着席） 議員 26 名（議席後方パイプイスに着席）

ア 各グループの意見交換

再度、本会議場に集合し、各班から感想を交えて意見交換の様子が報告され、参加者全体で各会場の意見交換の様子を共有した。（各班の報告概要は下記のとおり）

◇田中 大志朗 議員（1班）

1班では次のような要望や意見が出された。

市に対しては、自治会に対し、防災訓練等の実施を依頼されるが、予算の裏づけが10万円程度しかなく、予算の執行にも制約があり、使いにくい。避難所について、学校の鍵の管理方法が徹底されていない。避難所をふやすため、交渉等で市のサポートをお願いしたい。山側、川側など住居の場所によって住民の間で危機意識に対する温度差がある。特にマンションに居住する方は防災活動への参加率が低い。市は自治会任せにせず、自治会が動きやすいように支援してほしい。災害時要支援者への対応は自治会だけでは限界がある。地域によっては民生委員・児童委員へ協力を求めるが、困難な地域もある。自治会と民生委員・児童委員との総合的な調整をお願いしたい。

議員に対しては、地域にお祭りのときだけに来られるのではなく、地域の要望をもっと吸い上げてほしい。

今回の意見交換会で防災に関して情報交換ができて非常に良かった。今後このような場を設けてほしい。



◇伊庭 聡 議員（2班）

各地域でさまざまなマニュアルがあったとしても、経験不足だとすぐに動くことができない。訓練して実際に動くことが必要ではないかという意見から、地域ごとに課題等を管理していく人が必要ではないかとの話になった。避難所をあけるのは誰なのか、体育館をあけるのは誰なのか、川側に住む人や山側に住む人、高齢者など、どのように避難するのかなど、具体的に訓練していく必要があるとの意見が出された。

また、自治会への加入率の低下から、訓練には同じメンバーばかり参加している。若手や子育て世代など、幅広い層に訓練してもらいたい、負担と感じてなかなか参加してもらえない。訓練の運営スタッフが不足しているとの意見もあった。

解決策として、防災キャンプを行っている地域では、訓練でありながら子どもたちが楽しめ、家族が触れ合う場になっていることで、今まで来なかった若い世代の層も来てくれるようになった。また、マンションの高層に住む人は防災意識が少ないが、エレベーターが浸水すれば、部屋に帰るのも大変になるなど、住人に必要な情報の出し方を考えてはどうか、近くのマンションと協定を結ぶことによって何かあったときに避難させてもらうのはどうかなど、さまざまな意見が出された。

◇くわはら 健三郎 議員（3班）

避難所の開設時にごみの回収はどうするのか、障がい者や病人の避難方法はどうしたらいいのか、素人がトリアージを行ってよいのかなどの意見や、ボランティアセンター開設についての疑問が出された。中でも避難所の鍵の管理が問題となっていた。地域によってさまざまな開錠がなされているが、今回鍵の管理に違いがあるということを経験できた。避難所での宿泊体験を行ったという地域があり、楽しんで避難体験ができた。その中で避難所としてどの教室をどう使うか、事前に学校側と話し合っておく必要を感じた。今回の意見交換で自分の地域では課題であっても、他の地域では既に解決済みの事項もあるということがわかった。地域間の情報共有が大事だと感じた。今回の会議をきっかけに横のつながりを持つのは大事だとの話になった。生活インフラや道路などの整備は行政が行うなど行政と地域とのすみ分けを行って進めてほしい。

◇池田 光隆 議員（4班）

これからの想定外の災害について、特に水害に対しての危機感を持たないといけないとの意見や、ペット同伴の避難訓練を国のガイドラインに沿って行っている地域もあり、今後、ペット同伴での対応も検討していかないといけないとの意見が出された。また、福祉避難所の新しい開設をしっかりと

いかないといけないが、この点については行政の協力を得たいとの意見があった。

そもそも、避難所自体が避難所としての体裁が整っているのかとの意見があり、これに対して、市の総合防災課がしっかりチェックしていくことで問題をクリアできるのではないかと意見が出された。

意見交換のまとめとして、各まちづくり協議会の方々の高齢化も進み、人手不足の問題が顕著に起きてきている。リタイア世代だけではなく、現役世代や若い世代にどう参加してもらうか考える必要がある。今回、これらの意見交換からの学びを今後の活動につなげていけるよう、議員側もしっかり活動していきたい。市議会として災害対応の研修も実施しており、災害時には議員個人が活動するのではなく、市の災害対策本部と連携しながら市議会全体として対応していけるようにしていきたい。

#### イ 参加団体の感想

各団体の代表者から、意見交換会に参加した感想を演壇で述べていただいた。(概要は下記のとおり)

##### ◇廣木 昭 さん (コミュニティすえなり)

私からは少し苦言を述べたい。避難所運営に関する予算について、議員側はあまり把握されていなかった。予算の裏づけもない中で避難所運営を強いられているのが現状であり、よく考えてほしい。議員は地域の現状、足元をよく見てほしい。議員は地域の祭りには積極的に参加されるが、地域の会議にも顔を出して地域の情報をもう少し正確に把握してほしい。今後、働き方改革で定年が70歳まで延びると地域での担い手が少なくなる。地元の困窮を察して、行政は運営方法等を研究してほしい。

##### ◇豊田 茂男 さん (コミュニティ末広)

全体の感想を。まちづくり協議会として防災にかかわって6年になる。近隣のコミュニティすえなりさんからは避難所マニュアルを、宝塚第一小学校区まちづくり協議会さんからは多くの資料をいただき、これらに基づきやらないといけないと意を強くしていた。今回の意見交換会で、各コミュニティも私たちと同じような課題を持っていることがわかってほっとした。各コミュニティも悩んでいるということを頭に置いて、この辺でいいかという区切りを持つことも大事だということを学んだ。

##### ◇中谷 修 さん (宝塚第一小学校区まちづくり協議会)

防災というのは幅が広く、奥が深い。きょうの時間でいろいろな思いを述べるのは難しかった。今回の意見交換で横の連携や情報交換もできていい機

会になった。特にふれあいコミュニティ長尾さんは先進的な活動を過去からされていて、参考にさせてもらっている。横の連携についてはプラス効果があったが、もう少し具体的な話がしたいという思いがあった。避難所についてや地区防災組織についてなど、ある程度テーマを絞って時間をかけて話し合いができればよかったと思う。

◇喜多 毅 さん（宝小コミュニティ（川面地区自主防災会））

防災に取り組む参加団体側からの意見はいろいろと出されていたと思うが、議員からの発言はほとんどなかった。私たちは地域で一生懸命活動しており、コミュニティと自主防災会とで大変忙しい。ぜひ今後は、コミュニティや自主防災会のほうに参加いただきたい。

◇阪上 良彦 さん（ふれあいコミュニティ長尾）

こういう場を設けていただいて感謝する。全体的には時間が足りなかった。もう少し中身の濃い時間をとってほしかった。ほかの地域の方と情報交換ができたのはよかった。こういう機会がもっとあればいいと思った。

議場を使って大層に行わなくても、もっと小規模で行うほうが中身の濃い話し合いが複数回できると思う。意見交換会をやって終わりとならないよう、次につながる意見交換会にしてほしいと思う。

◇川本 千代美 さん（宝塚あいわ苑）

このような意見交換会に参加させていただき感謝する。平成 25 年度に宝塚市と協定を結んで、福祉避難所の開設訓練を毎年実施している。宝塚市全域で防災活動をしっかりとされていることに感銘を受けた。宝塚あいわ苑のほうでも来年度も訓練を実施する予定だが、そのときには各地域の皆さんが熱心に取り組まれていることを受けとめながら、福祉避難所の開設訓練に取り組みたい。

◆閉会挨拶

閉会に当たり、市議会を代表し、富川副議長から挨拶が行われた。

挨拶では、多くの貴重な意見を頂戴したことに感謝申し上げ、各グループに分かれての意見交換では各議員がしっかりと受けとめさせていただいたことを確認した。議員や議会への期待、今後にもつなげていただきたいとの御感想を各団体の皆さまからいただいた。今後、議会としても皆さまの思いを何らかの形で反映できるよう努めていきたいとの思いが述べられた。



## 第9回意見交換会 グループ記録

- 1 日時 令和2年2月7日（金）13：25～15：00
- 2 グループ名 1 班
- 3 テーマ 防災の取り組みについて
- 4 参加者 <市民 7名>  
 廣木 昭、小垣 佳子、乃美 公明、服部 晃、  
 田口 喜規、谷口 建、加藤 雅章  
 <市議会議員 7名>  
 村松 あんな（司会進行）、中野 正、田中 大志朗、  
 浅谷 亜紀、大川 裕之、大島 淡紅子、田中 こう
- 5 グループ報告 田中 大志朗
- 6 報告内容

発言者	発言内容
議員	危機管理監の説明資料に各団体の取組状況が紹介されているが、活動されている中での課題などはあるか。
参加者	平成25年から避難所運営委員会を設置して取り組んでいる。各小学校区で避難所運営をやれということで発足したのだが、予算的裏づけがない。避難所の運営は教育委員会が管理者として登録されている。自主防災組織が避難所運営委員会を立ち上げているが、権限がなく、予算的裏づけがない状態で発足している。避難所運営の予算は年間10万円程度で品物を買うのも苦労している。1.17で小学校と合同で避難訓練を行った。市から予算8万円ですべてやってくれと言われるが、足かせがある。その内容を御存じか。
議員	議員側は知っているか。  (議員側の発言なし)
参加者	昨年までは要求がほとんど通っていた。8万円の使い道は、学校とも協議

	<p>して決めているが、この8万円には県の予算が入っている。市はそのうちの2万円。使い道については、県との整合性を保つということで、条件の一つは消耗品に限るということ。設備関係には使えない。</p> <p>毛布や簡易ベッドは支給があるが、それだけでは足りない。ブルーシートや毛布を買うのは対象外で、消耗品に限られている。</p> <p>1.17も消耗品に限られるため炊き出しを行った。</p> <p>アルファ化米やビスケットなどの支給はあるが、豚汁にかかる費用は2万円ぐらいである。</p> <p>小学校3年生が対象で50人ぐらい、自主防災組織等も含め参加者は100人程度となる。</p> <p>懐中電灯やボードを買うということは、去年は買えていたが、ことしは買えない。</p> <p>市は、地域に避難所運営を依頼するが、予算的裏づけがどうなっているのか、市が各地域にどのように配分しているのか、議会としても把握してほしい。</p>
議員	<p>予算の裏づけについて、権限がないこと、支給をしているが、お金も使途が決まっているというようなことだが、御意見はあるか。</p>
議員	<p>消耗品に限るということだが、行政が備品と消耗品を分けているのは、備品登録しないといけないからで、民間会社では備品消耗品費となっていたりする。行政と民間では、使途の区分が違うので、ブルーシートや毛布などは買えるのではないかと思う。行政に確認はされたか。</p>
参加者	<p>購入希望リストを市に出してだめと言われる。</p>
議員	<p>どこから消耗品でないと言っているのか聞きたい。</p>
参加者	<p>買うときに市の職員がついてくる。お金は市役所が払うというシステム。そういうシステムを議員は理解しているのか疑問に思っている。</p>
参加者	<p>宝小コミュニティでも1月に小学校との合同自主防災訓練を行っている。</p> <p>アルファ化米は市からの支給で、同じく豚汁をつくったが、買い出しに市の職員がついて市の指定業者に買いに行く。防災訓練の担当の都合と合わないで、自主防災の予算で払い、市の予算は使わないようにしている。</p> <p>避難所の運営について、自主防災会で各避難所の鍵の管理表をつくっている。一番ネックになったのが小学校の鍵。</p> <p>今、避難所の運営は市が行っており、明るいうちからあけている。</p>

<p>参加者</p>	<p>鍵の管理は市であり、地元があけに行こうとしてもあけられないのが現実。もう少しどうにかしてほしいと思う。</p> <p>使用許可は校長が出すが、校長が市内在住かというところでもない。どうすればいざというときに円滑に開設できるかは検討事項の一つだと思う。</p>
<p>議員</p>	<p>予算の件は把握していないので聞いておく。鍵の件は、阪神・淡路大震災で芦屋市や西宮市も鍵あけで困った。</p> <p>芦屋市はキーボックスを設置し、揺れがあればあくようになっている。誰でもあけられる。</p> <p>教育委員会との協議がなかなかできないことがネック。学校施設の管理は教育委員会であるという聖域をどのようにするかというのは大きな問題となっている。</p>
<p>参加者</p>	<p>そうなると絵に描いた餅。</p> <p>市は地域に防災計画を出せと、取り組みもしろと言っても、教育委員会の壁がある。いざ発災したときにはどうなるんやという問題。</p> <p>地震はいつ起こるかわからないが、水害は予測できるので、水害についてはよいと思うが。</p>
<p>参加者</p>	<p>水害時の一時避難場所について提案したい。</p> <p>避難所に避難する過程で、内水浸水になると、道路と水路の境目がわからなくなり、水路に落ちる危険性がある。</p> <p>ゲリラ豪雨等水害の場合は、宝塚第一小学校、光明小学校は指定避難所であるが何分遠いため、2階に避難する。2階がなければ地域内にある大型のマンションに一時的に避難することとしている。4つのマンションと協定を締結し、同意を受け、ロビー、階段、廊下等共有部のみに避難することができる。</p> <p>独自のマップもつくり載せている。市は公的な場所で、消防本部や市役所は避けてくれというので民間に頼るしかない。スーパーにも依頼しているが、まだ許可が出ていない。そういった取り組みを皆さんも行ってはどうか、またこの取り組みを市もサポートしていただきたい。</p>
<p>議員</p>	<p>宝小コミュニティの小学校の鍵のことやコミュニティ末広の民間の建物への避難の後押しについて、各議員どのように考えるか。</p>
<p>議員</p>	<p>学校長は市内だけでなく、遠くから来ている人もいる。市の職員労働組合からは、地元に住んでいる現業職の職員が避難所をあけるという提案もある。</p>

<p>参加者</p>	<p>長尾南小学校なら隣の東消防署にコミュニティの鍵を預けているので、同じように小学校の鍵も預けることができればよいと思う。</p> <p>まずは、近くに住む職員が駆けつけることができる仕組みをつくっていかなければならないと思う。</p> <p>コミュニティすえなりでは、学校長は施設管理を一旦外れてもらいコミュニティが体育館と防災倉庫の鍵を預かっている。いざというときは鍵のあるところを知っているのだからあけられる。</p> <p>学校側としては、用務員など近くに住んでいる職員が来る。</p> <p>避難所開設については行政から指示が来る。これまでは学校長を通じて指示が来ていた。</p> <p>今は、防災メールで開設指示が来るので、それを見て自主的に行って用意をする。その後市役所から担当職員が来る。そういう流れである程度改善されたと思う。</p> <p>今までの経験では台風に関する開設であればこのやり方でも対応できる。</p> <p>例えば、泊まり込みでの開設であっても、食料は出せない。</p> <p>予算的な裏づけがないため、どの程度の設備をすればよいのかわからない。予算化してほしい。</p>
<p>参加者</p>	<p>避難所はコミュニティなり自治会が中心で運営する。学校の責任者が到着まで時間がかかるようであれば、地域のコミュニティの代表に鍵を渡してほしい。</p>
<p>議員</p>	<p>コミュニティすえなりはしている。</p>
<p>参加者</p>	<p>宝小コミュニティもしている。会長が厳重な封筒で管理していると聞いている。</p>
<p>参加者</p>	<p>市からの文書には難しい決まりが書いてあるが現実的ではない。鍵のことは一部の役員だけが知っており、いざとなれば駆けつけることができる。まずはコミュニティの施設に避難するため、体育館をあけることはない。コミュニティすえなりは多目的室などの部屋があるが、そういう部屋がないところもある。</p>
<p>参加者</p>	<p>徹底しているところとしていないところがある。避難所の鍵を学校の責任者以外に渡すということについては、制度化してもらってはどうか。</p>
<p>参加者</p>	<p>第一小学校区まちづくり協議会の範囲は、長寿ガ丘から逆瀬川ぐらいまで</p>



	<p>になるが、公式な避難所は第一小学校のみ、長寿ガ丘から歩いて 50 分かか る。</p> <p>一時、甲子園大学が避難所となっていたが、公式な避難所としてはやめて ほしいということになった。</p> <p>公式な避難所を市が設置してほしい。長寿ガ丘ならナチュラルスパ宝塚な どが近い。市がきちっとけじめをつけてやっていくというのが必要ではない かと思う。</p> <p>地区防災委員会をまち協と各自治会で行っている。長寿ガ丘は山に接して おり土砂災害の危険がある。武庫川があふれると中州地区が危ない。</p> <p>湯本地域は以前の保養所がマンションになり、マンションの人はあまり地 域の活動に参加しない。マンションの中での防災対策がある。</p> <p>いざというときはマンションにすがりたい。マンションとどう一緒になっ て取り組むかが課題である。</p> <p>災害時要援護者について、安否確認も含め重要なポイントである。</p> <p>災害時要援護者をピックアップしたり、サポーターをどうするかなどは、 個人情報もあるため、民生委員・児童委員連合会が中心になって行ってい るが、活動状況など情報が入ってこない。そのため、一番重要なこの部分につ いて、自治会として取り組めていない。その総合的な調整に力を貸してほし い。</p>
参加者	<p>災害時要援護者については、足腰が悪い人や障がいのある人に対し、事前 に自治会から、災害時に支援を希望するかを確認している。病歴や常備薬、 連絡先などを書面で出してもらい、支援者に情報を渡すことについて確認し、 了解を得ている。支援を希望する人は伊子志自治会だけで 40 人いるが、自主 的に支援するという人は負担を感じてなかなか手を挙げない。自治会から、 班長、組長、役員であることを提案し、規約で定めているし、毎年の総会等 でも説明し同意を得ている。</p>
参加者	<p>第一小学校区まちづくり協議会で、災害時要援護者について、同じように しようとしたとき、市から民生委員・児童委員連合会に委託してやってもら うと言われ、うちの校区の民生委員・児童委員も指示を受けているというの で、自治会としてはしなかった。</p>
参加者	<p>うちの民生委員は拒否された。というのは、民生児童委員が常時平均で 1 人が 50 人～60 人以上担当しており、その人は災害時に民生委員が支援する。 それ以上に何十人も言われても責任が負えないため。</p>
参加者	<p>野里自治会の民生委員も行っている、災害対策基本法という形で実際に動</p>

	<p>いている。第5地区では市内でもいち早く取り組んでいる。昨年から民生委員・児童委員連合会で行うことになったが、それでも手を挙げているのは、市が支援が必要だと把握している人数の40%程度。一番動けるのは小さなコミュニティである自治会だと思う。民生委員は安否確認をする、それで支援が必要であれば必要な機関につなぐということになるのでちょっと違うと思う。必要な仕事だと思うが、自治会と協力してすべきではないか。</p> <p>第5地区では、まちづくり協議会も自治会連合会も組織の支援ということでも手を挙げているが、見えているのは民生委員だけで、まちづくり協議会も自治会連合会も取り組みはない。</p> <p>協力体制がとれていない。その取り組みをするなら自治会という組織をしっかりつくらないといけない。野里自治会の加入率は85%ぐらいであるが、少ないところもある。新しい人はなかなか入らない。個人の自由はあると思うが、共助などを考えていく上では、市として強力な指導ができる形をつくっていただきたい。</p> <p>そうなれば、自治会として弱者の救済や共助などに取り組みやすい。</p> <p>助けるというならコミュニティ末広のようにこの人にはこれと決めることをすべきだと思うが、難しい。第5地区も先進的で、民生委員・児童委員連合会の取り組みがあり、自治会も協力的であるが、誰がどこまでするかというところまではできない。それを行政するのは難しく、地域地域で考えていかないと難しいと思う。</p> <p>自治会加入率80%のところ、それをすればすごいことだと思う。</p>
議員	<p>助けるというならコミュニティ末広のようにこの人にはこれと決めることをすべきだと思うが、難しい。第5地区も先進的で、民生委員・児童委員連合会の取り組みがあり、自治会も協力的であるが、誰がどこまでするかというところまではできない。それを行政するのは難しく、地域地域で考えていかないと難しいと思う。</p>
参加者	<p>回覧板が来るのも面倒くさいという理由で自治会に入らない人がいると、災害時にサポートが必要かということも伝えられない。自治会に入っていない人にはアプローチしないこともある。</p>
議員	<p>そうであればコミュニティということになるか。コミュニティであれば全員入っているということになるが、それでは範囲が広すぎて難しいか。</p>
議員	<p>例えば障がい者団体であれば独自に災害時の対策を考えているが、それが自治会の取り組みなどに含まれていないという課題がある。市が調整する必要があるかもしれないが、障がい者団体、高齢者団体との問題の共有も必要だと思う。聾の人は音で知らせても聞こえない。その対策を彼らは考えているが、地域に知らせるべきがない。高齢者の場合は介護施設などがどう地域にかかわっていくのかということところだと思う。</p>
参加者	<p>第5地区の人は積極的に取り組んでいる。</p>

	<p>宝塚あいわ苑としてもマニュアルの共有や民生委員・児童委員連合会のマニュアルをもとにつくらせてもらった経緯もあり地域の方と行政も入って一緒に訓練ができています。</p> <p>宝塚あいわ苑は、宝塚あいわ苑に登録された人の安否を確認し、地域は、地域で安否確認をするといった訓練をしており、そういった部分で連携ができています。</p> <p>訓練の回数を重ねるごとに、行政からいただいた段ボールベッドがボロボロになっている。購入もしているが、そういったところのバックアップ体制があれば助かる。</p> <p>第5地区もそうだが、いろんなところで訓練をしているので、そういったときにサンプル的なもの、新しいタイプのものを使える機会があれば助かる。最新の資材のことなども、情報交換ができるとよいと思う。</p>
議員	<p>災害時要援護者のことなどあったが、その中で第一小学校区では、市の公式の避難所1カ所しかない。地域の地形等にもよるが、市から地域に合った避難所の数を用意すべきじゃないかということ。マンションが多いところでは、訓練にも参加されていないし、自治会にも入っていないという課題なども挙げられたが、議員からそれについての御意見はあるか。</p>
議員	<p>いざというときの協定を結ぶということについて、自治会だけでは無理なら、行政も一緒に行く必要がある。ホテル等は難しいが、マンションは共有部分であれば可能性はある。</p> <p>市が行ってもだめなところもあると思うが、行政からあけろというのは難しい。</p>
参加者	<p>コミュニティ末広のマンションに避難するという件は、話はすぐに通ったのか。</p>
参加者	<p>断られたところもある。知らない人が多く来ると困る、トイレをどこにでもするんじゃないかななどの懸念も言われたが、責任を持って本人に処理させることとした。</p> <p>非常時なので人道的に考えて、あなたのこととと思ってくださいとお願いして了解をいただいた。</p>
議員	<p>民間との協議は、地域だけで行くのではなく、行政も入ってするともう少し円滑に進むのではないかと思います。</p> <p>ショッピングセンターなどとの協定についても、避難所ではないが行政もコンビニエンスストアなどと協定を結んでいる。</p>

参加者	一時避難とか3日間とか、時間の問題もある。
参加者	一時避難で水が引けば退去すると約束している。
参加者	文書で残すものか。
参加者	文書で残さないと相手は納得しない。
参加者	文書でなくても一時避難ならよいのではないか。ずっといるのとは別だと思いが。オートロックかどうかによっても異なるが、オートロックになっていなければ地域協定を結ばなくても一時避難できるのではないか。
参加者	協定はあったほうがよいのではないか。
参加者	時間の問題を文章化するのは相当難しい。
参加者	災害時要援護者については、災害時に対処するだけでなく、1年に前後1回は訪問し、状況に変更がないか確認するようにしている。
議員	日ごろからやりとりしていると、状況がわかるのでよい。 全市的に広げたいような取り組みはあるか。
議員	防災スイッチについて詳しく聞きたい。皆さんは知っているかもしれないが、防災スイッチって何やろって思っ。
議員	僕も聞きたい。
参加者	防災スイッチについて、先日も長野県の箕輪町からの視察があり、目の前の川がどうなれば避難するのかと、昔の人が空を見て判断したように、情報を見える化していこうということ。雨雲レーダーや武庫川の水位など、ポータルサイトもつくり、自助の助けになるものを啓発していくこと。避難所の運営以前に、まず自分の身を守るということの取り組みをしている。 自治会の人のみになるが、市のハザードマップをもとに身近な危険なところの意見を反映させた防災マップを作成し、その裏面にポータルサイトにつながる二次元バーコードを印刷し、地域全戸に配布した。多少なりとも意識づけができてきたと考えている。川面地区といっても3分会あり、南分会は県が出した千年に一度のハザードマップでは真っ赤になる地域、西分会、東

	<p>分会は河岸段丘の一段上の有馬街道沿いにあり、地域によって温度差がある。マンションはまた別である。西分会、東分会は土砂災害の危険があると言われてきている。今後勉強しないといけない。</p> <p>京都大学の先生と知り合えたので、もともと自主防災組織を対象に研修を行っていたが、昨年は小学校の体育館で、自治会の150人に、タイムラインに沿っての避難の仕方の机上訓練を行った。アンケートの結果、よくわかったとの反応があった。</p>
参加者	<p>千年に一度の洪水について、マップにしてどのように伝えるかという考えはあるか。千年に一度のマップをつくると衝撃的だと思うが。</p>
参加者	<p>データを見て自分でどう考えるかということ。タイムラインに沿った避難の仕方の訓練をしても皆1つか2つおくれる。実際には避難しておかなくてはならないときに、気持ちの中ではまだ大丈夫と思っている。それが人の心理である。ハザードマップをつくって、防災無線で呼びかけても、本人が動こうと思わなければ動かない。そうであれば、皆が判断できるように、目に見える化することが大事。</p> <p>広島の実例のときも、隣の人が声をかけてくれたので避難したという事例があった。その意識づけが必要。</p>
議員	<p>地域の中でどこを見て判断するかということで、自分ならどうするかということ。どうなったら、自分はどう逃げるかということで、防災スイッチは有効だと思う。</p>
参加者	<p>公助は当てにならない。自助と共助の範囲だけでしかできない。</p>
議員	<p>防災スイッチは水害のことについてで、地域によってはそういったことも考えていかないといけないところもある。地域によっては土砂崩れの危険があるところもあり、水害か地震かなど災害によっても異なる。ほかに全市的に広がればよいと思う活動などはあるか。</p>
参加者	<p>第5地区で訓練をしても山や川べりや平地など、地区により必要なことが違うので、関心の度合いが違う。自治会単位で必要な訓練に取り組む必要がある。大地震も大事だが、日々起こりうることに対する訓練が必要である。ブロックで必要なことを訓練する必要があるのではないかと思う。</p> <p>補助申請がいろいろあるが、上手に書類を書ける人が補助を受けるように思う。全体的にうまく申請できるようにならないか。</p> <p>申請しても補助金を受けられるかどうか分からないため取り組みができ</p>

参加者	<p>ない。全体に平等に行き渡るような方法を検討していただきたい。</p> <p>本市は現在、まちづくり計画の見直しを行っており、地域に知らせるところまでできている。その中で、都市計画に関する基本的な方針を私たちはわかっていない。危機管理センターが先送りになっている。公園より先にすべきではないかという意見も出ている。</p> <p>伊子志でも消防車が入れないところもある、隣接するNTTの寮がなくなり、空き地ができる。空き地利用について行政はどう考えているのか。行政はあまり関心がないように聞いているが、その地区を移転して整備する計画ができないか提案もしたのだがあまりいい返事はなかった。</p> <p>TOAのところまで市道が整備されているが、もともと磯病院まで計画があったはずだがいつのまにか消えている。議会も行政に対してのチェック機能を働かせ、一体これがどうなっているのか確認してもらい、市民にわかるようにしていただきたい。</p>
議員	<p>補助制度や助成金が全体に行き渡るようにということ、まちづくり計画の見直しというところで、都市計画について、避難所運営等も含めた計画をしていただきたいということであるが、議員からの御意見は。</p>
議員	<p>補助金は税金が原資のため手続は踏まないといけない。市民に説明するためにも書類は必要である。行政が振り分けることも難しく、補助金を減らせと言っている立場からも言いにくい。限られた中でバランスよくする必要があり、言われていることはわかるが、努力しないと難しいのではないか。</p>
議員	<p>ここまで家が建つと、行政としてできることとできないことがあると思う。当該地域は行きどまりや狭くて抜けられない道が多い。広げようと思えば、そこから先の民有地を収用できるだけの強制力があればよいが、現実的には難しい。民間が購入して開発するときには道路がつながるように指導しなければならないと思うが。なぜこの地域だけこのようになっているのかわからない。</p>
参加者	<p>地番が1つで何十軒もあるところもある。カーナビゲーションでは行けない。</p>
参加者	<p>昔からの歴史的な経緯があるのではないか。</p>
参加者	<p>防災マップの作成も市の補助金で行い全戸配布した。防災会で統一のベストをつくったときも、県の補助金を使った。防災倉庫に資機材で、去年の災</p>

<p>議員</p>	<p>害を受けて発電機を購入した。</p> <p>南地区は浸水のおそれがあり、地域の人からボートの提供があった。当初必要なかと思っていたが、向月町が浸水したら必要だろうとなった。現在、会長が増艇について市にかけ合っている。</p> <p>地域に任せるなら予算が要る。土砂災害区域の危険を見分けるのが地域の防災組織。それを市に情報提供する流れをつくっていかないと難しい。</p> <p>全体の意見交換としては、予算の裏づけがないこと。避難所の鍵の管理のこと。民間施設への避難とその協議への市の協力のこと。災害時要援護者の安否確認のことなどの活発な議論があったと思うが、今後どのようにしていけばよいのかや議員の働きかけについてなど御意見はあるか。</p>
<p>参加者</p>	<p>議員は地域の集会等に参加してほしい。お祭り等だけでなく会議に参加して地域を知ってもらいたい。</p> <p>行政も職員を派遣して地域の意見を吸い上げているが、あまり反応がない。議会との関係があるので、その折衝の矢面に立つのは二の足を踏むと思う。行政内で処理できるものは処理すればいいと思う。地域に足を運んでいただければ、地域の意見を吸い上げてもらえると思う。</p>
<p>参加者</p>	<p>まちづくり協議会としての予算でやりくりしている状況だが、なかなか予算がとれない。要求するが、なかなか返事がない。報告書や領収書が必ず要る。監視されている中での地域活動の取り組みになっている。</p> <p>若い人が出てこない。人材育成が行き詰まっている。60代、70代が頑張っている状況でのコミュニティづくりになっていることを認識していただきたい。</p>
<p>参加者</p>	<p>先ほど司会の議員の言ったことを発表していただければよい。</p>
<p>参加者</p>	<p>きょうほかの団体の話を聞き、参考になった。市のホームページなどでもよいので、情報共有できるもの、地区防災計画のマニュアルなど少しはあるが、もっと情報を出して参考にしながらレベルアップしていき、宝塚市の防災都市づくりをしていければいいと思う。</p>
<p>参加者</p>	<p>予算は、税負担を考えるなら市の補助金を平等にと言われる中で、防災については全ての市民が享受するものであり、もう少し使いやすい対応ができるようにしていただきたい。</p> <p>情報交換について、きょうのこれだけでも時間が足りない。情報交換により意識レベルが上がってくるのでよいことだと思う。</p>

参加者	<p>私も防災スイッチが、マスメディアに取り上げられたことで、さらに活動しなければならなくなってきている。そういうのも必要なと思う。防災に強い宝塚市にしていきたい。</p> <p>自治会の加入促進をしていただき、自治会活動ができるようにしていきたい。</p> <p>きょうこの意見交換で各団体の方と顔見知りになれてうれしい。顔見知りになると話もしやすいし、情報交換もしやすくなる。自治会長も1年交代では何もできないが、継続性を持たせるような働きかけをしていただければ、全体の活動も活発になり、災害時の問題にしてもコミュニティの活動にしてもやりやすくなるのではないかと思う。</p>
参加者	<p>情報交換についてはこういった機会に来られてよかった。</p> <p>私は社会福祉施設として来ているが、ほかの施設も参入していただき、一緒にマニュアルをつくっていくような体制ができれば、参考にもできるし提案もできる。きょうのこの場をもう少し強化できればよいと思う。</p>



## 第9回意見交換会 グループ記録

- 1 日時 令和2年2月7日（金）13:25～15:02
- 2 グループ名 2 班
- 3 テーマ 防災の取り組みについて
- 4 参加者 <市民 7名>  
中西 勇、豊田 茂男、松川 富喜子、宮川 勝一、  
森田 大和、金岡 信重、川本 千代美  
<市議会議員 6名>  
川口 潤（司会進行）、伊庭 聡、岩佐 まさし、  
北山 照昭、となき 正勝、藤岡 和枝
- 5 グループ報告 伊庭 聡
- 6 報告内容

発言者	発言内容
参加者	宝塚あいわ苑では、平成 25 年に宝塚市と協定を結び、福祉避難所開設訓練を毎年行っている。先日 1 月 19 日にも地域の民生委員さんや住民の方の協力を得ながら、開催することができた。
参加者	コミュニティ末広では、平成 26 年度からコミュニティを一つとして災害訓練を実施、今年で 6 回を数える。各々しかるべきことをやっている。
参加者	阪神・淡路大震災のときは、拠点は学校ではなかった。学校を借りて救援物資の配布や体育館にいる避難者の見守りを初代の代表として経験させてもらった。
参加者	避難所運営マニュアル作成に携わっている。市としては自治会に救援が来るが、自治会の中には非自治会員もたくさんいて、同様にされるので、自治会員と非自治会員の取り扱いが気になっている。
参加者	川面地区自主防災会では 19 自治会、人口が 1 万 9 千人ぐらいだと思うが、防災訓練の参加は 400 人程度。せめて 50 代ぐらいの方に参加してほしい。い

参加者	<p>かに参加していただくかが一番の問題かと考えている。</p> <p>長尾地区まちづくり協議会内の7つの部会のうちの一つである防犯防災部会に所属しており、現在部会員は20名程度。平成22年に立ち上げたが、そのとき議論したのが災害の軽減も大事だが、避難者をどうするかということ。地域内には小学校3つと中学校が2つあって、ここ7年程毎年そこで避難所開設訓練を行っており、年1回長尾地区全部の合同訓練を行っている。しかし、これだけやっても成果は得られない。実際は繰り返し訓練を行って体で覚えてしまわないと、あのような修羅場の中で冷静に行動するのは無理である。前の震災のときには、体育館に入ったら皆好き勝手に場所をとってしまって收拾がつかなかった。今回は避難して来たら運動場で待ってもらって、受付をして、災害時要援護者の方が優先的にいい場所に避難するといったことが本当にあの場所のできるのか、私も自信がない。我々80歳が第一線に出られるわけでもないし、若い方にやっていただくことが必要ではないかと非常に危機感を持って従事している。</p>
議員	<p>先ほどの話の中で、お二人から若い世代の参加について、もっと積極的に参加してもらえたら、地域の中でもしっかりと役割を担って引き継いでもらえたらということがあったが、そのあたりをどのように思って活動されているか。</p>
参加者	<p>コミュニティすえなりも2013年、平成25年から避難訓練運営委員会を設置、年1回末成小学校の体育館で震度6強を想定した避難訓練を実施している。最初六、七百人ほどの参加があった。自治会が十二、三あるが、先ほど議場で行政の方も言っておられたが、うちは大丈夫と思っている方が多いのか参加者が年々減ってきている。どういうふうに地域で災害にもっと関心を持ってもらえるか。若い人も結構参加してくれているが、うちは大丈夫と思っている人が多くて困っている。この辺で内容やメニューを変えて防災訓練をするか、会議で話し合っているが非常に難しい。各自治会が会員を引っ張って参加してくれればいいがうまくいかない。マニュアルも2013年につくった。学校やPTAが協力してくれたら若い人は動く。もう少し掘り起こしたい。</p>
議員	<p>全体的になかなか自分事として考えてもらえない、参加者が減るといった問題、災害に関心を持ってもらえない、何となく自分は大丈夫と意識が働いてしまっている意見が出たが。</p>
参加者	<p>コミュニティ全体の動きも高齢者中心になっている。</p>

	<p>昨年、防災の新しい試みとして防災キャンプに取り組んだ。小学校ではできないので中央公民館を借りた。集まった人数からいえば成功だったと言える。キャンプをする、しないで、参加者の人数が違う。キャンプをすれば子どもとその保護者、キャンプのお世話をする方たちとで4割増の実績であった。</p>
参加者	<p>私自身は、防災キャンプはやり方が固まってしまうというか、あまり好きではないが、成功であったとは聞いている。冬季キャンプの開催希望も聞いているが、スタッフが少ない。PTAも防災訓練に協力してくれるが、保護者が大変だということで、例年行っている小学校での餅つきも今年は中止になった。スタッフもやらされてるという感覚か、子どもたちのためにやっているんだけど、子どものためになっていないと考える方もおられるようだ。</p>
参加者	<p>毎年1月17日周辺で防災訓練を実施する。宝塚小学校の小学生全員と地域の方でざっと1,200人ぐらいの参加者。平日に実施しているが、休日に実施してはどうかとの意見もある。2年前から取り組んでいる防災スイッチは、避難所開設訓練までには至っていない。宝来橋に逃げる目安をつくってほしいと兵庫県に伝えており、2月中には県がやりますということで話ができた。逃げる目安、スイッチがないとどこで逃げたらいいかわからない。あとはそれを見た人が、どのあたりで逃げてくださいと言うか。地域内では災害の想定として水害と土砂崩れが両方あり、地域間でのギャップがひどい。それをいかにするかが現状一番困っている。8カ所ある耐震性貯水槽のうちの 하나가御殿山中学校にあるが、発災時にそこまで行けるのか。せめて宝塚小学校への設置をお願いしたい。テレビ取材を受けて、周囲から電話がかかってくるしたが、そんなことででも防災ってこんなんやと知ってもらえたらいいかなと思っている。</p>
議員	<p>地震の時は防災スイッチというわけにはいかないし、雨も、雨量計が市内のどこにあるかネット上ではお知らせしているが、どこまで市民が知っているか。</p>
参加者	<p>自主防災会の役員がポータルサイトを運営している。自宅が武庫川のそばにある役員で水位の見張り係をして、水位がここまで来たら避難指示を出してと会長に連絡するようにしている。また、当会で作成し全戸配布している防災マップの裏に2次元バーコードを入れ、ポータルサイトで情報を見ただけのようにしている。</p>
議員	<p>地域で避難訓練など活発にしておられるが、自治会の加入率が下がってお</p>

	<p>り、災害は自治会員だからコミュニティの会員だからというものではないので、地域全体で考えるとそういう視点をどうするかが課題。災害はめったにあるものではない。いつ逃げるかは地域によって違い、一番身近なところで危険を発信したら切実に感じるのではないか。そうしないと皆信じない。訓練では実際の被害とうまくリンクするようにしないと難しい。</p>
参加者	<p>誰がどこを見るかは決めているが、避難スイッチは実際にはまだ出したことはない。ないほうが良いとは思いますが、何回空振りしてもいいから出そうとは言っている。</p>
議員	<p>避難訓練に集まるのはごくわずかだが、システムとしては必要。地域によって被害の状況は違うので、地域で地形やどこが危ないかを強調して皆にわかっているかと、避難の仕方や心構えが変わってくるのではないか。一般論ではびったりこない。ただ全体に周知するのが難しい。</p>
参加者	<p>末広地域のうち末広小学校、末広中央公園、宝塚市役所とその西側の地区は、兵庫県が作成した100年に一度の洪水で溢流し、50センチメートル冠水する区域に指定されているが、実は、溢流しなくても内水が氾濫し浸水することがある。地域内だけでなく、市全体として水はけを見てほしい。地域内にある4つのマンションと、共用部分に避難させてもらえるよう協定を結んでいる。ありがたいことであり、広げていきたい。</p>
議員	<p>宝塚の場合は内水の流れが悪くて氾濫するという被害が大きい。避難するタイミングを理解しないとおくれる。縦の避難が大事。</p>
参加者	<p>コミュニティすえなりでは、震災はもうかなり勉強したので、次は水害を勉強しないと、と考えている。高司地区は市域でも地盤が一番低いが皆知らない。六甲山系や長尾山系に400から450ミリ降ったら武庫川があふれると言われているが、今はそれぐらい平気で降る。昔は武庫川が切れて良元村が水没したことが何回もあったが、それを食いとめてくれたのが小林一三さんと平塚嘉右衛門さん。宝塚市の安全安心なまちの地盤は小林一三さんと平塚嘉右衛門さんがつくった。</p>
参加者	<p>コミュニティ末広も震災の避難所については大分検討してやっているが、逆瀬川のすぐそばに住んでいるので水害が一番怖い。水は低いほうに流れるので、末広のほうには避難をしないというのが住民の一番大きな声である。水害時は末広小学校は避難所ではなく、第一小学校も宝塚病院のところがあふれたら橋を渡って行けない。一番お願いしたいのは、水害時の公的な避難</p>

<p>議員</p>	<p>所を設けてほしい。</p> <p>東京に住んでいたので地震のことしか頭になかったが、こちらに来て、水害や浸水についてしっかり考えていかないといけないと思った。</p> <p>いろいろ意見が出てぶれてしまったが、最初に戻って参加者の減少や自治会の加入率、会員外の取り扱いについてなどはどうか。</p>
<p>参加者</p>	<p>訓練の開催について回覧するなど労力をかけるが効果が出ない。確かにいつ見ても同じようなメンバー。先日小学校で行った訓練に参加したお母さん方から「段ボールベッドってこういうふうにつくるんだね」といった声が聞こえてきて、いいPRになったなと思った。地域の人全員が参加して、1回でも2回でも段ボールベッドをつくったり、間仕切りをつくったり経験してほしい。若手に参加してほしいが、平日に会社を休んでまで来ない、日曜日は学校が使用できない、といろいろな矛盾があるが、若い人に平素から興味を持ってもらうことが大事。地域ごとに違いがあるから一番の答えはない。明日地震になったら、誰が校門をあけて、場所づくりして、名簿をつくるのか。役所から二人来てもらっても期待はできない。となると、地元で少し興味のある人となる。こんなことを言っている我々が、明日は助けてもらう立場かもしれない。地域ごとに皆が汗をかかないといけない。</p>
<p>議員</p>	<p>私の友人のお母さんたちは防災キャンプをするなど、若い人たちもそれぞれ動いているので、そこから輪が広がればいいなと思う。ここで、若手の意見も少しお願いしたい。</p>
<p>議員</p>	<p>それぞれのコミュニティで、それぞれの土地柄があるので問題点も違う。毎月の情報発信で、地域の最寄りに合わせた情報で告知や発信の方がイメージがわかりやすいのではないか。マンションに住んでいると災害は関係ないと思いがちだが、部屋は浸水しないが、エレベーターが浸水すると24階に住んでいるあなたは家に帰れませんよ、などといった書き方は興味を引き、関心が低い人を巻き込むためには必要な手法ではないか。また、若い世代には、楽しいイベントの中に真剣な訓練があるといったような、入り口をやさしくしていくやり方もあるのではないか。イメージは防災キャンプが近い。楽しみながら学べる環境をつくっていくのも一つの方法ではないか。そうすると、日曜日に学校の体育館をあけてもらうことが課題となるが、先輩議員方はどう思われるか。</p>
<p>議員</p>	<p>防災キャンプはおもしろいなと思った。若い人の集まりが課題というが、最近はPTAですらなかなか手がない中で、地域の取り組みに積極的に</p>

	<p>参加していけるかという難しい。ただ、それも子どもたちが楽しめるイベントと考えたら、参加する人もいるだろうなど。自分の子どもが参加したいと言ったら自分も参加しようとなる。休日の学校利用については、市の防災部署やその担当者が管理することにすれば、特に問題なく使用できるのではないか。そこは市の内部で決めて進めていくべきで、こういう取り組みがもっと広がればいいと思う。</p>
<p>議員</p>	<p>防災キャンプなど学校との連携については、行政に突っ込んで動いてもらわないといけない部分もあるのかなと思う。なり手不足は永遠のテーマ。マンションの方は自治会に入っていない方が多いが、自治会に入っていないと、特に防災のときなど大事な情報が何も入ってこない。</p> <p>コミュニティ末広の4つのマンションとの連携協定で、会長がコミュニティの中を歩いて交渉に回られたと伺ったが、その中で若い方へのアプローチなど情報があれば教えていただけたら。</p>
<p>参加者</p>	<p>高齢者の見守りなどに若い人にかかわってもらうためには、現代の使えるものは何でも使って、LINEでも何でもできるようにしないといけないと言っている。そういうもので連絡がとれるよう、地域で無料のスマホ教室をしているが、最近高齢者も通ってこられる。防災訓練などの日曜日の開催について、学校は抵抗なく使用させてもらっている。学校を使用して行った場合、校長先生から申請していただき、市から消耗品などの提供が受けられるが、ほかのコミュニティではそこまでやっておられないようだ。</p>
<p>参加者</p>	<p>再開発を行ってからマンションがふえてきた。新しいマンションにも勧誘に行かないといけないが、最近のマンションには集会所がないため、自身の管理組合の集まりなどにも苦慮されている現状などを伺うと、避難協定などは難しいと感じる。私の地域の場合は、まだアピアがあるので、公の避難所ではないが、何かのときにはアピアに逃げ込んでくださいと伝えている。避難訓練を行っても参加率が悪いので、せめて身近なところで開催したら認識も深まるかと思ひ、毎年自治会で市の防災と防犯の出前講座をお願いしている。また、来月はアピアホールで住民対象に見守りや日常のお隣同士の声かけなどについて、社協と地域包括支援センターと一緒に実施するが、その中では必ず避難所のことが出てくると思ひ、先ほどお願いした。</p>
<p>議員</p>	<p>隣同士が昔のように顔が見える関係ではない、自治会がないからつながりがないという中、先ほどのスマホ講座での交流や、子どもたちも参加して楽しみながら、自然に防災の備えを知ることができればいいと感じた。</p>

参加者	<p>宝塚あいわ苑として、長尾地区まちづくり協議会や自治会連合会、民児連と協力して小学校での防災訓練を行う際、市の方がトリアージを行った後に福祉避難所を開設するという流れを年1回行っている。その中で、第5地区の動きはよくわかるが、宝塚全域でこんなにも活発な取り組みが行われていることを知って感銘を受けた。福祉避難所としてしっかり取り組みをしないと、地域の人がこんなに頑張っているということ、施設に戻って報告したい。施設の中でも、若い人は関心がない。日曜日に訓練をするといっても、手を挙げて参加するのは古参の職員ばかり。やはり入職のときに福祉避難所とは何かというところから教育しないといけないということで、いま取り組んでいる。</p>
参加者	<p>阪神・淡路大震災の時の、一部損壊や半壊に近い家を一部修理しただけでいまだに住んでいる家が市内でもかなりあるのではないかと。これは議員も力を入れて考えないと、今度震度6が来たら非常に危険な状態ではないかと。</p>
参加者	<p>地域に新しくできた老人ホームと逆瀬川自治会、伊子志自治会が避難者を受け入れる協定を結んでいる。防災訓練にも声をかけて、参加されている。</p>
参加者	<p>施設も地域にお世話になることもあるだろうから、お互いに助け合っていくましよう、施設からお話もあり、人数に制限はあるものの避難所として受け入れてくださると。こういう施設がたくさんできれば、いうことはない。</p>
参加者	<p>隣接するコミュニティが連携することも大事。</p>
参加者	<p>防災も間口がいろいろある。地域性もあり、ここで一概によしあしは言えない。基本的な考え方は一つではないかと。避難訓練でも、訓練のやり方は地域でいろいろあるけれども、基本となるところは宝塚市が一本で進めていかないといけない。基本方針は市に出してもらおうが、細かい運用については地域で行うということ。高齢者の避難をどうするか。民生委員だけでは難しいのではないかと。平素から顔の見える関係でしておくべきではないかと。防災部に所属しているからといって、責任が全てそこにあるわけではない。責任はそれぞれにあり、本来は我々もその中の一員である。人より少し経験や興味があるからやっているだけで、そのあたりを地域の人にも理解してほしい。</p>
参加者	<p>各地域でいろいろなことをやっておられる。実際、今後もやることは変わらない。一人一人が本当にどうするのか、ということだけ考えてもらったらいいのではないかと。</p>

参加者	自治会員をふやす取り組みとして、年3回発行している広報紙を自治会に加入していないところにも配布している。地道に続いていけば何とかなのではないかと思っている。
参加者	声かけから始めましょう、避難所に行ったら食料をもらえますとあるけれど、いざというときにどうやって避難所までお連れするか。食料ももらいに行かないといけない。具体的なことになるのと全く抜けている。要は住んでいる人がその気にならないと。そういうふうにしむけることが必要ではないか。
参加者	宝塚は昔と比べてよくなった。よそ者扱いしなくなった。以前はほかの地域に行くと「よそから来た人」と言われたが、それがなくなって宝塚はよくなったと思う。
議員	最後の発表について、何を発表するか何点かだけでも。
議員	参加者の減少、若い人の参加、スタッフ不足、マニュアルだけでなく実際の訓練が必要、地域ごと、対象者ごとの具体策が必要などの問題点があった。解決策として、民間などとの協力、協定などにより若い人の参加やスタッフ不足などが埋められるのではないか。情報発信や間口を広げていくこと、各地域で協力していくことなどが一つの方法として挙げられるのではないか。



## 第9回意見交換会 グループ記録

- 1 日時 令和2年2月7日（金） 13:30～15:00
- 2 グループ名 3 班
- 3 テーマ 防災の取り組みについて
- 4 参加者 <市民 7名>  
前田 美智子、半谷 喜一、大槻 恵子、中谷 修、  
安庭 正明、阪上 良彦、庭山 茂夫  
<市議会議員 6名>  
横田 まさのり（司会進行）、くわはら 健三郎、石倉 加代子、  
江原 和明、北野 聡子、山本 敬子
- 5 グループ報告 くわはら 健三郎
- 6 報告内容

発言者	発言内容
参加者	末成小学校地域まちづくり協議会では選出母体が各自治会や老人会などいろいろあるが、その中から民生委員の立場で参加している。避難所運営委員会が立ち上がってからずっと入っている。
参加者	宝塚第一小学校区まちづくり協議会の安全部会で、防災や安全、予防を担当している。宝塚第一小学校区は人数がとにかく多く、マンションも多いので、防災の企画もやっているが、なかなか全体でというのは難しい状況。本職は薬剤師なので、医療の立場からも災害時の取り組みを考えていきたい。
参加者	宝塚第一小学校区で地区防災組織を立ち上げて活動している。その活動と市（総合防災課）との協働がどのように図れるか話したい。4年ほど前に防災士の資格を取っている。
参加者	宝塚小学校区まちづくり協議会（宝小コミュニティ）において、その中の防災部ではなく、別組織として、阪神・淡路大震災の次の年に宝塚市内で一番早く立ち上がった川面地区自主防災会から参加している。川面にだんじりが3台あるが、各保存会の会長が各分会長という形で、ちょっとほかとは違

参加者	<p>った形で防災会として活動している。縁があつて、京都大学防災研究所の矢守教授に2年前から講演いただいて、勉強会も十数回やっている。行政とのつながりをどう持っていくかをきょうは勉強したい。</p> <p>長尾地区まちづくり協議会の防災・防犯部会で活動している。防災士、防災リーダーの資格を取っている。長尾地区は小学校が3つあり、どうしても広範囲になるので、どうまとめるかがいつもテーマになる。先日から山本の自治会長も務めることになり、今まではコミュニティと自治会と民生委員の連携がちょっと難しかったが、たまたま共有できることになった。</p>
参加者	<p>長尾地区まちづくり協議会の中で、山本の野里前自治会という50軒程度の小さな自治会で活動している。2年前にひょうご防災リーダーの会に半年行って防災士の資格を取った。自主防災は自治会でやるが、自治会長が1年で持ち回りで、あまり自主防災に力を入れていない。2年前に防災士になった時点で、皆さんに防災の知識を伝えなくてはいけないという気持ちになって、年4回、七、八枚のレポートを書いて自治会の各戸に配っていた。ことしもやろうかと思っていたら、自治会長から去年の5月くらいに自主防災の幹事をやってほしいと言われ、務めることにした。まず自主防災のマニュアルをつくって自治会の皆さんに認識してもらおうということで、きのうようやくマニュアルができ上がった。まだ役員の方には了承をとっていないが、また後で意見を言わせてもらいたい。</p>
参加者	<p>コミュニティ末広で、5つの自治会で防災訓練に取り組んでいる立場から今回参加した。伝えたいことを10項目ほどにまとめてきた。1点目は避難所を開設したとき、各種ごみを市は通常通り回収できるのか。混乱の中、大量にごみが出た場合大丈夫なのか。2点目は、障がい者や歩行困難者、吸入や人工透析をしている人が居宅の場合、避難方法はどうしたらいいか。3点目は、保健師や介護士などの有資格者が少なく、情報もない中で、地域で避難所を運営するときに素人ばかりで問題はないのか。そうした有資格者の確保方法は。4点目は、避難所開設は施設管理者と市の担当者が行うが、災害発生後どのくらいで開設できるのか。市に確認してみたら、鍵を管理する校長先生は遠くに住んでおられ、市の担当者は誰かも聞いていない。</p> <p>次は物資の配布について。避難所では情報が入るが、在宅避難の人に配布する場合、その内容・数量・時期について公平にお知らせできるのか。</p> <p>次は、災害時の連絡方法、市役所の発信について。災害時はいろんな問い合わせがあるが、どこにどう尋ねたらよいか。事前にわかる範囲で告知しておくなど、方法を考えてほしい。防災スピーカーや市の広報車も数が限られている。市の告知板のようなものをつくっておけば対応できるのでは。</p>

	<p>市役所と避難所の連携はどうか。情報班長等いろいろつくっているが、非常時の体制がはっきり明確でない。マニュアルがあっても細かいところがわからない。また、災害と言っても、例えばコロナウイルスのような病気も災害の一つと思うが、市は統一した見解を出していないので、皆不安に思う。それから避難所で急病者が発生し、消防があちこち出動してしまつて間に合わないとき、搬送は誰がするのか。また搬送先の交渉を誰がするのか。何も決まっていないので、重症者が避難してきても何も対応できない。</p> <p>それから、ボランティアの受け入れについて市の対応はどうするのか。ボランティアセンターが勝手にすることなのか、多数の問い合わせにどう対応するのか、宿泊先や駐車場は決まっているのか、ある程度の考えはあるのか。また、物資受入体制について、防災公園や各地に分散して受入場所があつても、どんな受け入れをしてどんなルートで入ってくるのか、前もってわからない。</p> <p>土砂災害危険箇所の点検について、先日神奈川で発生した事故では危険箇所が点検されていないため死者が出た。道路が近くに走っているところや、断崖絶壁にあるところ等の危険箇所の点検は、我々に伝わっていないが、安心してできているのか。また、道路制限はすぐ対応できるのか。</p> <p>障がい者や高齢者が就寝するときに必要な段ボールベッドを持っている避難所は少ない。避難してきて床で寝ることで体調を悪くする人が多数出てくる可能性もあるので、考えてもらいたい。</p>
議員	<p>大きく分けて、発信力と仕組みの問題ということと思われるが、お聞きになったの御意見は。</p>
参加者	<p>宝塚第一小学校区まちづくり協議会の地区防災活動で防災訓練や避難訓練を体育館でするときに、体育館の鍵をまちづくり協議会が預かりたいということスポーツ振興課や総合防災課に言うとなかなか話が通らないが、スポーツ 21 などスポーツ振興団体等で体育館の鍵を支給されているところは数多くある。それと、避難所を設営したときに、市の職員が交代で2人来るが、その人が防災担当の職員とは限らない。一例として、介護センターの車で高齢者が何も持たずに自主避難してきたときに、水や自分に必要なものは自分で持ってきてくださいといつて買いにいってもらったということがあつて、その対応は有事のときに問題ではないかということ総合防災課に話をして、後から対応されたということがあつた。有事のときの避難所であるので、すばらしい環境にする必要はないのではという一部の市職員の意見も聞いたが、今の避難所だったら一度行くと二度と行きたくないというような環境だということもある。地域で自主防災を進める考え方と行政の考え方のギャップが大きい。市民団体と行政の協働のすみ分けをどうするのかという具体的</p>

	<p>な話し合いが、3年半ぐらいたつが、一度もなく、我々が勉強会や説明会を開くというときに市は時々出席するぐらいである。</p>
<p>議員</p>	<p>避難所宿泊体験をされている団体があると聞いたが。</p>
<p>参加者</p>	<p>避難所宿泊体験を第一小学校区で今年度の9月に実施した。人数が決まっていて、地区ごとにグループ分けし場所も決めて、入るスペースも決めてやっているの、どちらかという楽しく体験しようという趣旨だったため、せっぱ詰まった状況ではない。第一小学校区は人数が多いので、全員が入るかと言えば入れるわけがないし、年齢層もばらばらで、課題はいろいろある。備蓄としてはある程度、段ボールベッド等、資材をそろえて体育館に置いているが、実際にそれがどれだけ役に立つかは、実際の災害や人数など、実際に起こらないとわからない。</p>
<p>参加者</p>	<p>保健師さんなど、資格を持っている人には、情報をどうしたらいいと思うか。</p>
<p>参加者</p>	<p>まちづくり協議会の中には看護師や、社会福祉士とか、私のように薬剤師とか、多少でも医療に携わる人もいる。そういう人が避難所にかかわれるときはいいと思うが、実際は医療関係者がかかわれる時期は避難所が開設してから何日かたってからしか入れないと決まっている。災害時は自衛隊からまず入って、状況が整ってから医療関係者が入るとなっていて、医療関係者自身も被災していたりもするので必ずしも活動できるとは限らない、どちらかという受け身の体制で、誰がします、と断言はできない状態である。</p>
<p>議員</p>	<p>阪神・淡路大震災のとき、仁川の百合野町で、普段からおつき合いがある人がいて、寝ている部屋も聞いていたので探すときもそこから探したために助かったということがあって、普段からのおつき合いがとても大事だと思っている。長尾山が4日間燃えたこともあって、結局大丈夫だったが、皆さんが避難所である学校へ避難してきたとき、そこだけでなんとかしようとするのではなく、学校施設以外にも避難所になりそうなところを幅広く探すと上のほうに2カ所もあるということがそのとき初めてわかった。</p> <p>今で言えば、新型コロナウイルス感染症の相談窓口の設置状況や川の増水状況など、議員に回ってくる情報を市民にも伝えているが、これからどうすればもっとよい形になるか、これを機に考えてみたい。</p>
<p>議員</p>	<p>市内にはレッド地域やイエロー地域も多く、災害時派遣を予定されている市職員に頼っているのはだめだということの取り組みが、自助・公助・共助の</p>

	<p>地区防災計画となっている。防災リーダー講座を受講したときの話では、地域ごとに特性が違うので、一番大事なのは地区防災計画をまず地域でつくるのが目標で、それを提出しチェックや訂正が入り、それをもとに地域でやってくださいということだった。すみれが丘地域では、高齢者や障がい者の情報を把握するのに自治会でアンケート調査をしようとしたが、個人情報保護等の問題があって結局回せなかった。そうした情報の把握が地域にとっては大事なことである。市内の老健施設などの福祉避難所では高齢者や障がい者の受け入れで提携しているが、どうやって受け入れていくのかという運営が一番の課題であると思う。</p> <p>要支援者については、市で災害時要援護者支援制度というものがあって、民生委員と自治会でその人をピックアップして、支援の要望がある人は市が情報を管理しており、要支援者1人に対し2人の援護者を最初に募っておくことを前提とした地区防災計画を我々も市に提出している。要支援者と支援者の関係は日ごろから築いておくが、それ以外の人の情報は民生委員や自治会長が情報を把握して、我々防災会には個人情報は一切流れてこない。</p> <p>避難所開設については、教育委員会と校長で前もって話し合ってもらって、避難所となる学校内で使ってもいい部屋の場所、仮設トイレやごみ置き場の場所等を事前に決めてもらいパウチにしてあらかじめ教室に掲示したり、校長室に全体工程や校庭や校舎の地図と一緒にまとめて置いてもらったりして、誰が行ってもわかるように、事前に準備できることからやっていくことを来年度の目標にしている。HUGという避難所運営ゲームを市の防災担当に来てもらって役員会でやったが、究極の選択をするようないろんな状況を勉強できて、非常に参考になった。</p> <p>ボランティアの受け入れについては、社会福祉協議会の担当者に来てもらって話を聞いた。災害時は売布のフレミラでボランティアセンターを開設して、そこへ各コミュニティや防災会から連絡や要望がいつてそれぞれに配属されるということだった。全国への発信もインターネットを使ってそこからされるので、宿泊施設の手配まではわからないが、おそらく全国からフレミラにボランティアが来てくれることになるという仕組みをそのとき初めて聞いた。</p>
参加者	
議員	<p>避難所にも指定避難所や予備避難所、福祉避難所といろいろあるが、体育館の避難所開設時の鍵の課題については。</p>
議員	<p>避難所になる体育館の鍵の件は各議員も本会議でこれまで市長に対して質問している。いろんな先進事例もあって、鍵をボックスに入れて誰でも取れるところに置いていたり、誰々と決めて鍵を渡していたり、いろいろやり</p>

	<p>方があるようなのでその地域に合わせたやり方で決めてもらったと思う。</p> <p>情報発信については、屋外型の最新式のすみれ防災スピーカーが市北部や南部市街地に設置される。4月から試験運転が始まるが、水道局新庁舎の2階に防災センターをつくることになり、今の予定では新庁舎は2022年12月に完成予定である。災害時の避難所と市の連絡は行政無線を使うことになっていて、数百台程度を既に購入しているので、安心していただけたらと思う。</p> <p>自助、公助、共助については、やはり市役所が全てするのは無理である。平成7年の阪神・淡路大震災から25年たって、各地域で自主防災会等の組織をつくっていただいて、多くの方が防災リーダーや防災士になっていただいて、避難所開設訓練もして、いろいろな形で進んできている。あとはお金の問題で、段ボールベッドや毛布などをそろえている地域とそうでない地域があるので、平常時から、そういう備品類その他をどう用意して、保管して、誰が管理するか等を一つ一つ地域の皆さんが市などと協議して決めていく。いざというときにはそれをマニュアルどおり使っていくという体制を、何もないときにやっておくことが大事と思う。</p> <p>そのほか川が氾濫して浸水被害があつて畳が使えなくなったときに畳を事業者組合から供給してもらつた協定など平常時に災害時を想定した協定を、コープを初め順次、市はさまざまとところと結んでいっており、ホームページでも掲載している。水害や土砂災害など災害形態はさまざまで、地形的にも違うので、各自主防災組織が何を想定して何を準備するかはそれぞれと思う。地域の特性を近くの議員に相談していただいたら、それをもとに議会も市へ提案して災害対応していくこともできると思う。</p> <p>参加者</p> <p>水害の場合はよほど低地でない限り、自宅にとどまったほうが安全と思うので、在宅の人が多くなる可能性が十分あると考えているが、そうした人の安否確認はどう対応しようとそれぞれ考えておられるのか。個人情報もわからず、自治会の加入率もだいたい60%くらいで、おつき合いがあればよいかもかもしれないが、災害が発生したら、自分も被災するかもしれないし、民生委員も被災するかもしれないような状況なら、どうやって安否確認をすればいいのか、今後一番大きな問題と思うが、何かいい御意見はないか。</p> <p>議員</p> <p>避難訓練をしても全体に伝わらないという悩みや、安否確認、発信の仕方など含めて、こうしているよ、ああしようと思つているよという御意見は。</p> <p>参加者</p> <p>私は民生委員をしているが、私の個人のやり方は、担当地域が離れたところなので、救急車が来てはすぐ行けない。この辺で1人、この辺で1人と、お世話してくれる人をお願いしているので、誰かに何かあれば連絡してもらえ。またその方たちにもこちらから知らせるべきことは携帯のショートメ</p>
--	---

	<p>ールで発信する。安否確認については、市がやっている災害時要援護者支援制度登録者と末成町自治会の緊急要援護者登録者に手を挙げている支援者にも協力をお願いし、民生委員受け持ち地域の見守りをしている。高齢者の方は顔がなじんでいるので、入院で不在などの場合は、私のところへ電話をかけてこられる。全ての民生委員が同じやり方をしていないとは限らない。</p>
<p>議員</p>	<p>昔、小さいころ、向こう三軒両隣と言っていた、それが一つの原点なのかなと思う。地域ごとに特色もあるかもしれない。長尾地区で地域の皆さんのために冊子をつくられたと聞いたが、どういうものかお聞かせ願えるか。</p>
<p>参加者</p>	<p>自主防災をつくるに当たって、自治会の環境に即した避難所への経路図をつくるのに実際歩いて、どこを通ったらいいかというのを調べるために丸橋小学校まで行ったら、あれっと思った。穴が開くほど第5地区の防災マップを見て、いざ丸橋小学校の正門に行ったらマークの状態が避難場所が避難所となっている。宝塚市は避難地という表現をしているようだが、避難地ではないのかと。その辺が、防災マップと実際学校に掲示している掲示物を統一化してほしいと思った。もう一点は、0.5から1.0メートル未満の浸水の表の色と左側にある公園、ゴルフ場の色が全く同じ。実際ヤフーや地図でもはっきり出ないので、エクセルで自分で手書きで避難マップをつくった。そうしたら、色が一緒で、こんなところ川がないのに、0.5から1.0メートル未満の浸水があるなんてと思って見ると、公園だった。似ている色は変えてほしい。もう一点は、千年に一度の洪水と言うが、それは千年に一度なのか、1年間に0.1%の確率で大雨が降るのか、県が算出しているらしいが、誤解のない表現をしてほしい。</p>
<p>議員</p>	<p>丸橋小学校の周りはイエローゾーンで、長尾小学校や中山五月台小学校の周りはレッドゾーンに入っている。中山五月台小学校は統廃合ということになったので解決するかと思うし、擁壁をしっかりともらったらレッドゾーンの認定はまた変わる。中山台コミュニティセンターもレッドゾーンに入っているの、まずは公の施設から、擁壁をしっかりともらって認定を変えてもらわないかと思っている。</p> <p>水害の場合の避難所と震災の場合の避難所は分けるべきと議会でも言った。南ひばりガ丘中学校や美座小学校は川より低い土地にあるので、水害の際は使えないと指摘した。今回神奈川県で雨も降っていないのに擁壁が崩れる事故が起きたが、擁壁は毎日見ていると水が出ているとか、変化が何かあるそう。内水による災害は非常に恐ろしいので、斜面地の方々は擁壁部分を一生懸命見てほしい。南ひばりガ丘中学校は土石流が来る危険もある。日々の注意と心構えをお願いしたい。</p>

議員	<p>その冊子（参加者のお一人が持参された冊子）がさきほどおっしゃっていた、おつくりになったという、地域の皆さんにお配りされるものか。</p>
参加者	<p>この冊子は去年の5月から考えてつくり始めて、自治会長ともいろいろすり合わせをして、ようやく形ができた。今月の半ばに自治会の役員会で提出して、そこで承認を得たら3月の自治会総会で大事なところを抜粋して皆さんにお配りする予定である。</p>
議員	<p>それぞれの地域に合った取り組みは本当に大事だと思う。</p>
議員	<p>先ほど他の議員も指摘されていたが、大きな災害時には、災害対策の自助・公助・共助の中で、特に公助はあまり機能しない。そこでいかに地域の方の力で共助によって災害被害を抑えていくかということが大事かと思う。そうした活動をされている皆さんであり、お話を聞くと、ある地域から出た質問がほかの地域ではよく知っておられたりしてお答えされたことが幾つかあったので、各地域の防災会や防災組織等の横のつながりをこれからもっと持っていていただく必要があるのかなと思う。コミュニティによって規模や組織のつくり方、成り立ちなどいろいろ違うし、得意な部分、不得意な部分もあると思うが、きょう集まっていたただけでもちょっと話ただけで解決したり理解が深まったりしたことがあるのでは。その辺の何か新たな仕組みづくりを、行政主導という形よりも恐らく市民同士でつくっていただくのがひとつ今の状態からワンステップ上がるのに必要なことではないかなという感じを受けたが、そのあたり、前に防災会の横のつながりについてお聞きしたことがあるが、どういうものか教えていただけるか。</p>
参加者	<p>先日、新潟県長岡市のほうに、千曲川の洪水とか前の台風とかで被害があったところだが、防災の方ばかりが集まる中で発表会のようなものがあってお話を聞きに行った。長岡では安全士会という会があって、防災士の方が安全士にもなっていて、大きなくくりで自分たちが住んでいるところの安全を守ろうということで、長岡の中ではそういう会を何回もやっておられるということだった。宝小コミュニティの場合は自主防災会と別組織になっているが、役員はほとんど兼任している形になっている。こういう自主防災組織の集まりで定期的に情報交換をやっていけたらいいなと思う。20のコミュニティは月に一度代表者の集まりがあるが、防災組織は今まで横のつながりがほぼない。各コミュニティの中には防災部があって、宝小コミュニティの会長がそこで発表されたこともある。コミュニティの代表者会を開催しているように、防災関係の代表者会のようなものも開催して、横のつながりをどんど</p>



<p>議員</p>	<p>ん、世の中も変わっていくので、機材も新しくなるし、そういう部分も情報交換できたらもっと市として防災力が上がっていくのではないかと思う。</p> <p>きょうは限られた時間ではあるが、これをきっかけに、これを機会にという形になればいいと思う。</p>
<p>議員</p>	<p>きょういろいろと地域ごとやそれぞれのお立場の意見をお聞きした。私は阪神・淡路大震災のときに市内の小学校に勤務していて、たまたま近くに住んでおり、自分も家族もなんとか無事と確認した後、鍵を持ってすぐに学校へ行けたので学校をあけられた。当時は早朝の地震で、早朝からは避難者が来なかったが、夜が近づく夕方3時ごろになると一気に来られた。体育館からあけていったが、それでは追いつかず、図書室をあけ、理科室をあけ、普通教室を最後にして教職員が判断してあけていった。当時は自主防災組織も何にもなく、まず最初に自衛隊のおにぎりが来て、情報がだんだん広がるなかで、何日か経ってお医者さんが来たときはほっとした。やはり、水、それから食べる物と、生活の基本の部分の確保から、またあのときはトイレの水に困ってプールから運んだりもした。そのときに自主的に動いてくれる人が何人かいて、分担もできたが、今度もし同じことがあればもっと思いのある人が活動できると思う。ただ、ここにいる人も自分が被災してしまって動けなくなるかもしれないので、常に地域で仕組みをつくっておく必要があるんだなと思った。最近多い豪雨災害の場合は、いつ逃げるかという判断については誰もが迷うところなので、地震のように起きてから後のことだけではなくて、起きる前の予防的な避難をしていこうということになっていくと思う。議会からも予算を使ったドローンの整備や無線の設置など、全体的なことをやっていくので、それぞれの地域からの声も聞かせていただいて、横のつながりも持ちながら、共通した課題はともに解決していく、市にやってというだけではなく、一緒にやりましょうという姿勢でいてくださることが一番よいかと思う。議会からも、市からも、学校の立場からも、それぞれ思いは同じだと思うので、まずつながりを密接に持っていただきたらと思う。この機会をいい勉強にさせていただいた。</p>
<p>参加者</p>	<p>きょうは避難所の話のウェートが高かった。当時は避難所マニュアルというものは何もなく、私たちの先輩方が、長尾のまちづくり協議会でつくろうということになって、文書によると、平成24年3月にやっとできたことである。その後、それを市が採用させてほしいという話になって、それがベースになって今の宝塚市のマニュアルができたと聞いている。そのため、我々はマニュアルに基づく行動に重きを置いている。幸いにも、地域的に学校が多く、年に数回避難所訓練をしているが、そのときにいつも思うのは道具が少な過</p>

<p>議員</p>	<p>ぎるということである。我々、年に3万円か5万円の予算をいただいて、コピー代等に回しているが、それで段ボールベッドは買えない。我々は避難所訓練をするための費用をいただいているだけで、それで各学校に段ボールベッドを1つずつ置いたらそれで5万円は終わってしまう。とにかく予算を組んでいただいて、年に何個かずつでも避難グッズをそろえていただきたいし、そろえたものも傷んでくるので、計画的な補充という意味でも予算どりをお願いしたい。また、避難所ではきちっとした間仕切りが必要ということも訓練時に実感するので、それもやっていただけたらありがたい。</p> <p>インフラ整備ということでは、宝塚市の道路は伊丹に比べて狭い、暗いという話が出る。特に山本は近隣だけに多い。宝塚市の道路整備は非常におくれているということをうわさに聞くし現実に見るし、ということなので、長期的な考え方でそこに重きを置いた行政をお願いしたい。</p> <p>災害時要援護者の話、どうするかということだが、私も自治会長をやっていて、情報を知っているけど言えない、言わなかったら誰が守るのか、という話が各自治会長の間でもいつも出る。最終的には民生委員さんお願いねということになってしまう。その辺のいい方法が見つかればなと思っている。</p> <p>防災マップを今回つくってもらったのは、第5地区では各自治会で防災マップをつくってねというように持って行って、つくっていている。全体の防災マップはあるが、各地区に応じた、どぶの1つ、溝の1本からマップをつくってねということにしているので、今回できたものも将来を見据えて、役に立つと思っている。</p> <p>2点だけ報告する。光ガ丘で、土砂崩れ災害の危険区域があったが、それをキャッチされるのが早かったので事前に準備しておられたので土砂崩れを防げたという事例がある。</p> <p>あと、消防本部のOBが協力体制で三十数名いらっしゃると聞いているので、一緒に活動できたらと思っている。</p>
-----------	---

## 第9回意見交換会 グループ記録

- 1 日時 令和2年2月7日（金）13:28～15:01
- 2 グループ名 4班
- 3 テーマ 防災の取り組みについて
- 4 参加者 <市民 7名>  
村山 謙二、檜垣 彰子、山本 敏晴、喜多 毅、  
澤園 幸代、松本 清三、福住 武士  
<市議会議員 7名>  
風早 ひさお（司会進行）、池田 光隆、梶川 みさお、  
たぶち 静子、寺本 早苗、富川 晃太郎、三宅 浩二
- 5 グループ報告 池田 光隆
- 6 報告内容

発言者	発言内容
議員	現在の活動及び課題について説明してもらった上で、意見交換をしたいと思う。
議員	阪神・淡路大震災を清荒神で被災した経験から、地域のつながりが大切だと考え他市への視察も行っている。
議員	阪神・淡路大震災時は市の職員として亡くなった人を搬送する仕事をしていたことがある。
議員	現在北部の西谷地域に住んでいる。危険箇所が50カ所あり、消防団や地域の人との地域防災が大切だと感じている。阪神・淡路大震災時は家が全壊し3年間仮設住宅に住んでおり、被災者と一緒に復興に取り組んできた経験がある。
議員	阪神・淡路大震災時は夫が単身赴任で、1歳の子どもがいる状態での被災だった。東北の震災後には防災リーダー講座に通い、防災士の資格を取得した。

<p>議員</p>	<p>地域の防災についてはマンション群の視点からの気づきが必要だと考えている。</p> <p>防災リーダー講座を受講し、防災士である。地域の自主防災会の一員でもある。</p>
<p>議員</p>	<p>防災リーダーとして10年間ほど活動している。</p>
<p>参加者</p>	<p>コミュニティすえなりでは2013年に避難所運営委員会が設立され、2019年末までに年に約6回、計43回の委員会を開催している。避難所運営マニュアルを作成しその後、住民を交えての訓練を4回、避難所運営委員のメンバーでの訓練を3回行った。その中では避難所の運営ゲームHUGやクロスロードゲームも行っている。地域としては10の自治会を持っており、高齢者が多い地域である。避難所運営委員会も高齢者が多く、千曲川の氾濫を見て、危機感を持っている。長年、宝塚市に住んでいるが、大きな洪水による被害を受けたことがなく想像ができない状況である。今後市から住民へ情報を発信してもらえれば住民側も刺激を受け、危機意識を持つのではないかと考えている。</p> <p>自治会としても災害時に対応できるように予算内で電池やランタン、簡易トイレ用のビニール袋の配布をし災害に備えている。</p>
<p>参加者</p>	<p>青森出身で4歳のころに十勝沖地震で被災をし、10歳の時には大雨により地盤が緩む列車トラブルで近くの保育所で一晩過ごした経験がある。当時は避難所という概念が社会にない時代であった。平成2年より宝塚市民となったが、当時は阪神間では大きな地震が起こるなど住民は思ってもおらず、自分の小さいころの経験をいくら伝えても地震の実感を持ってもらえなかった。今は防災の話をつかち合える仲間が大勢できて心強く思っている。</p> <p>日頃は女性の視点で防災を考える「宝塚どないしょネット」の代表や、宝塚・防災リーダーの会にも所属し防災の活動をしている。まだ市内全てが冠水するような大きな水害の経験はないが、大きな川が近くにあり、いつか水害が起こりうると考え、いろんな人たちとつながり合い、活動を続けている。その活動の中で市内にはドローン操作や阪神救助犬協会のような災害救助活動をしている方が大勢いると知り、そういった人たちと協定を結び、発災時にはいち早く救助に向かってもらえる体制をつくるのが大切だと考える。</p>
<p>参加者</p>	<p>宝塚第一小学校区まちづくり協議会では地域の特性と課題をまとめた地図をつくった。武庫川、逆瀬川、支多々川、亥の谷川があり水害のリスクが高い地域である。9千世帯、2万人が住み、居住地における人口密度は市平均の</p>

	<p>約 4.5 倍と多くの方が住んでいるが、しっかりとした避難所が宝塚第一小学校しかなく、2 万人の避難先の確保が課題である。</p> <p>自治会が 20 あり、それぞれに自主防災組織があるが、実際に活動しているのは 6 割程度である。その中には防災士の資格を持つ人がリーダーとなり、LINE で情報共有をしている地域もある。</p> <p>マンションが 50 あり、そのうち、まち協に参加するのは 7 カ所程度しかないが、今後は関東のタワーマンションの水害を受け防災への関心が変わってくるのではないかと考えている。</p> <p>数年前から防災に力を入れており、地域総合防災計画の策定や避難所運営計画の策定を行った。また福祉的な避難所の運営に強い、佛教大学の後藤先生にお世話になっている。</p> <p>防災訓練、避難所設営訓練、HUG 等を行っており、また防災キャンプ等、毎年新しい企画を行い、若い人にも参加してもらえるように取り組んでいる。</p> <p>防災訓練へ参加してもらえよう日ごろから夏祭りや餅つき大会でネットワークをつくることを大切にしている。</p>
参加者	<p>宝塚小学校区まちづくり協議会、川面地区自主防災会の会長をしている。これら 2 つの組織は一体となった運営をしており、一昨年、地区防災計画を市に提出した。川の氾濫しやすい箇所や、消防車が入れない細い道、AED の設置場所、井戸の場所などを記載した防災マップの作成を行い、自治会の会員へ全戸配布を行った。</p> <p>平成 8 年に川面地区自主防災会が発足し、19 自治体、約 1 万 8 千人をカバーしている組織である。この組織はだんじり保存会がベースとなり、それに自治会が乗った形となっている。東・西・南と 3 つの分会に分かれており、分会長は保存会の若く元気な人で、自治会長は副分会長となっている。その下に情報班、消火班、避難誘導班、救命救護班、給水給食班の 5 つの班がある。</p> <p>ここ 2 年間は京都大学の矢守教授と竹之内准教授の指導を受け、避難スイッチに重点的に取り組み、テレビや新聞等に取り上げられた。実際に水害を経験したわけではないが、想定が大切と考え訓練を行っている。</p>
参加者	<p>宝塚市に来て 15 年で被災経験はないが、自主防災会や自治会の仕事をする中で隣近所にどのような人が住んでいるのかということを知らないことを実感し、災害時に誰がひとり暮らしの老人を救助するのか疑問に感じた。自治会の名簿にも入っていない高齢者もいるが、民生委員からは個人情報保護の関係で情報をもらえないし、本人も提供を望んでいない。せめて隣近所の人には日ごろから声かけをし、災害時に避難の手伝いができるような関係をつくろうとしている。</p>

<p>参加者</p>	<p>ふれあいコミュニティ長尾の防災・防犯部会に属している。そこでは阪神・淡路大震災であったような過酷な避難所の生活を緩和し、避難所での関連死を減らす活動や、地域住民との継続的な防災訓練をしている。</p> <p>平成 25 年に長尾地区の避難所運営マニュアルを作成し、これが平成 27 年には市の避難所運営マニュアルとして編集された。もしものときに配布できるように避難所班長の行動マニュアルを発行した。平成 29 年には長尾地区の避難所運営委員会の行動マニュアルを発行した。平成 25 年から 29 年にかけて、第 5 地区にある 5 つの指定避難所において、避難所施設の利用計画を作成している。</p> <p>防災訓練については第 5 地区自治会連合会、民生委員・児童委員、まちづくり協議会、各学校、宝塚あいわ苑を交えて指定避難所で行っている。2019 年の 12 月に長尾南小学校で行った防災訓練では、宝塚東高校の生徒 4 名の参加があった。その生徒は長尾南小学校の卒業生であり、防災意識が浸透しているのがありがたく感じた。</p> <p>防災部会として 2019 年の 4 月から、自治会単位で防災マップの作成を進めており、私がいる自治会では避難所までの経路と、道路冠水が起こる可能性がある箇所をまとめたものをつくった。</p>
<p>参加者</p>	<p>宝塚あいわ苑では今まで 7 回の福祉避難所開設訓練を行い、職員も上達しているが、他の法人で福祉避難所開設訓練をしているところはほぼほぼ聞かない。宝塚あいわ苑が訓練に使用するベッドは市から提供されたもので、今でも使えているが、最近市と協定を結んだ社会福祉法人ではベッドを用意するお金がないと思う。各法人で避難所開設の予算はとらないと思うので、開設の訓練すらできてないのではないかと。実際の震災時には段ボールベッドがどこかから支給されると思うが、訓練のために備品がある環境が必要だと考える。</p> <p>愛和会は民生委員やまちづくり協議会、自治会とかかわりを持ちながら、地域の中にある社会福祉法人として活動をしており、地域の中に入っているからこそできることもあると考える。</p>
<p>議員</p>	<p>川面地区で行っている避難スイッチとはどのようなものか。</p>
<p>参加者</p>	<p>水位が一定基準以上に到達したら逃げるというのを、住民が考え決めるものである。現在、武庫川の本流、一後川、荒神川、大堀川と、下の池、谷池、広沢池の水位を自主防災会の幹部が確認し、LINE で情報交換をしている。避難の判断は現場で行うこととし、その判断を受け避難をする際には、誰かと一緒に避難しようと誘うことに効果があると考えており人海戦術で行う。</p>

	<p>そして行政が整備した防災スピーカーの活用も考えている。また私案では、避難指示を受信できる受信機が安く入手可能なら活用したいと考えている。同地域内であっても、崖や川に近いところもあり、最終的には自治会の組や班の中で避難スイッチを決められたらと考えている。</p>
<p>議員</p>	<p>前回の民生委員・児童委員連合会との意見交換会の際、災害時要援護者名簿を民生委員が訪問し作成しており、自治会が協力してくれるところはいくつかあるが、自治会の協力を得られない地域、自治会登録していないマンションなどでは作成が難しいのが課題であった。前回の意見交換会から1年たったいま、現状をどのように感じているか。</p>
<p>参加者</p>	<p>宝小コミュニティでは地域福祉課と連携し、全ての自治会で名簿作成を終わっており、コミュニティと地区自主防災会が助けると文書化している。ただ、マンション群の自治会でまだ出ていないところがある。名簿を作成するかどうかは各自治会長の裁量に任されている。</p>
<p>参加者</p>	<p>福井・亀井自治会では、平成24年に災害時に要援護者を支援するため会員・非会員問わず文書でアンケートをとったところ、助けてほしい人30名、支援ができる人100名の回答があった。それに基づき1人当たり2~3人支援をする人をマッチングする取り組みを行い現在に至る。現在は、民生委員と要援護者を訪問し名簿カードを作成しており、スムーズに協力できている。</p>
<p>参加者</p>	<p>伊子志自治会では、自治会員以外は、民生児童委員が担当し、自治会員は、自治会で助け合う。いい状態で助け合っているが、年々、自治会会員の減少や高齢化が進んでいる。若い人は、昼間は他市での仕事や学校へ出ており、助けてほしい気持ちがあっても外に出ているから難しい。</p>
<p>議員</p>	<p>民生委員との個人情報のやりとりについて、どうクリアしているか。</p>
<p>参加者</p>	<p>民生委員の情報を見るわけではない。手挙げ方式で、希望者が自治会員であれば自治会、そうでなければ、民生委員が行きますと連絡し情報を渡している。渡した後は民生委員の担当だからと終わりにせず、自治会でもそこに要援護者がいるということを気にかけている。</p>
<p>参加者</p>	<p>要援護者支援カードを地域福祉課が民生委員に依頼し作成したのはすごい業績だと思う。次は、災害時にこれが本当に動くかということを検討し、助け合うことが必要だと思う。</p>

参加者	<p>20 ある自治会の要援護者は大体つかめているが、マンション群は、50のうち7しかコミュニティとつながりがない。マンション管理組合の責任者を訪問し説得し、ネットワークをつくっていかないと解決しない。福祉避難所は校区に1つもない。寿楽荘では、集まれるお寺も会館もない。山下橋の下の教会を借りて毎週1回百歳体操をしている。1回で20人ぐらいが参加している。それにより、地域のつながりができてきた。</p> <p>1月9日に、震災25年を振り返る催しを行った。そこに地域の民生児童委員全員に参加してもらい、まち協単位でつながりを持った。震災当時の校長先生や育友会の方を招き避難所開設の話聞いた。西谷地域からお米と野菜が届き翌日から炊き出しが行われた。北と南のネットワーク連携は大切だと感じた。</p> <p>隣の良元地区の地域防災に参加したり、良元からも来てもらったりしており、横の交流も大切だと感じた。</p>
参加者	<p>地域が広い。民生児童委員が熱心で、地域を回ってくれているが、外に情報を出せないのが全員見られる名簿はない。自治会独自で65歳以上のひとり暮らしの方の名簿をつくって役立てようとしている。</p> <p>地域では個人情報の提供に配慮し、住民の人数だけ届出してもらっている。12~18軒が1つの班となっており、班のことについては、班長や古い人が大体把握している。</p>
議員	<p>行政として何が協力できるのか考えないといけないと思う。</p>
議員	<p>コミュニティ末広では、避難所運営時のペットなど動物についてどう取り組んでいるか。</p>
参加者	<p>ペット同行の避難訓練をしている。国のガイドラインがある。犬や猫を家に置いていくと逃げて人を信頼しない状態で野生化してしまう。復興のためには感染予防などのため保護しないといけないが、その対応に時間や人手、お金がかかるため、一日も早い復興のためには避難訓練でペット同行の数が少なくても続けていかないと考えている。</p>
参加者	<p>避難所のことで要望がある。体育館を避難所として使うのであれば、総合防災課が、各体育館が避難所としての基準を満たしているか管理をしてほしい。例えば、階段を上ったところに和式のトイレがあるなど、高齢者には使えない状態である。教育委員会と総合防災課が連携をとってほしい。</p>



参加者	避難所運営用の備品について、市で予算をとってほしい。現在はまちづくり協議会の防災部会から資金のない中でやりくりをしており、個人負担が多い。継続していくための援助をしてほしい。
参加者	第一小学校区まちづくり協議会では、マニュアルで補助犬・盲導犬は体育館に入れない。校舎の一部スペースに行ってもらおう。ほかのペットについては、運動場の隅にスペースをつくる。物資については、1~2日後には届く可能性が高いが、トイレについてはすぐに影響が出るのに簡易トイレがない。20人に1台いるといわれているので、その対応が欠けていると思う。 また、水の確保についても考える必要があると思う。
議員	防災のシンポジウムに参加した。避難所の環境の問題、ペット問題、女性に対する性犯罪などの問題が取り上げられた。ペットの同行避難は地域の環境を守るために必要があり、飼い主やペットのためだけに対応が必要なわけではない。そういう課題があることを踏まえて地域で考えてほしい。
議員	避難所のトイレについて意見があったが、体育館のトイレを改修するのか、簡易トイレをふやすのか。
参加者	トイレが洋式化になるまでは、簡易トイレを常備してほしい。
参加者	トイレを改修してほしいという要望ではない。マンホールトイレもつくれる場所は少ないので、簡易トイレを用意しておけば、安心感にもつながる。
参加者	議員は、防災についてどのような活動をしているのか。
議員	各議員は、地域の要望を聞きながら防災について活動をしている。 ある中学校では、避難所であるにもかかわらず体育館にトイレがなかったが、地域の人声をもとに議員や議会が動き、建てかえが実現した。一方で、共同利用施設のトイレについては、建物の耐震化に予算が優先されているため、きちんと整備されていないと考えている。本日、皆さんからいただいた意見を各議員がそれぞれの立場で進めていけたらよいと考えている。
参加者	災害はいつ起こるかわからない。課題を議員の力で見つけて補完してほしい。
議員	意見交換会を開催するに当たり、いろいろな意見が出る中、今、最優先事項である防災をテーマに決めた。各議員は地域の中でいろいろな活動をして

<p>参加者</p>	<p>いる。本日の皆さんの活動を聞いて勉強し、議会として方向づけ、議員個人としての方向づけに生かしていけるよう本日の会を開かせていただいた。</p> <p>この意見交換会の傍聴に若い人や、お父さんやお母さんが子どもを連れて来られて、他人事ではなく、自分事に感じられるよう、土日に開催したらどうか。</p>
<p>議員</p>	<p>平日開催や土日開催かというのは、過去8回開催する中で試行錯誤しており、今後も市民の声が聴けるような取り組みにしたい。</p>
<p>参加者</p>	<p>気候変動により台風の勢力が大きいまま上陸したりするようになってきた。そうなってくると、避難所に大勢の人が押しかけてくる。その対策のため体育館以外の場所についても検討してほしい。</p>
<p>議員</p>	<p>このような機会をつくることで、議員が何をしているのか知ってもらえ、議員は各地域の方々の活動を勉強させていただいた。いただいた問題点は大きな課題であるので、我々議員はそれを知り、整理していくことが必要だと考える。各地域の皆さんもほかの地域の活動を知り、お互いの連携をとっていただく機会になればと思う。</p>